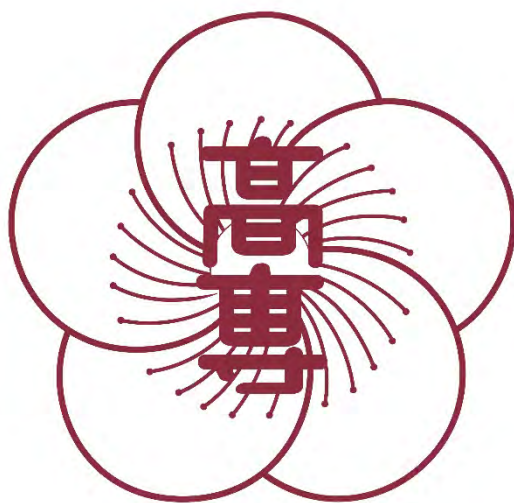


令和4年度 年次報告書

—委員会等による活動報告及び点検評価結果—



茨城工業高等専門学校

目 次

1. 学生の受入（入学試験委員会）	1
2. 教育内容等（教務委員会）	8
3. 教育内容等（専攻科委員会）	13
4. 学生支援（学生委員会）	16
5. 寮生支援（寮務委員会）	24
6. 広報活動（広報委員会）	27
7. 学生健康支援（学生健康センター）	30
8. 図書館運営（学術総合情報センター）	33
9. 情報化推進（学術総合情報センター）	43
10. 国際化推進（グローバル教育センター）	45
11. 男女共同参画推進（男女共同参画推進センター）	50
12. 地域連携・研究活動	
（副校長（地域連携・評価）、地域共同テクノセンター）	52
13. 教育組織（教員任用審査会）	58
14. 教育支援組織（事務部）	60
15. 教育支援組織（技術教育支援センター）	62
16. 予算及び施設・整備（総務委員会）	70
17. 安全衛生管理（安全衛生委員会）	74
18. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）	77

1. 学生の受入（入学試験委員会）

(1) 取組実績

①入試広報活動

1) 地区別学校説明会

7月下旬～8月上旬に県内8会場（本校、日立、常陸大宮、笠間、土浦、つくば、牛久、鹿嶋）で学校説明会を実施した。地区学校説明会は3年ぶりの開催となり、学校概要、在校生及び卒業生の学校紹介、入試制度等について説明を行った。中学生（552名）及び保護者等が参加した。

2) 中学校進路指導担当教員対象学校説明会

学校概要、募集要項及び出願手続等について説明を行った。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響による令和5年度入学者選抜における配慮事項について説明した。

回	日 時	場 所	参加校	合計
第1回	9月8日（木）14:00～16:00	本校視聴覚教室	41校	71校
第2回	10月12日（水）14:00～16:00	本校視聴覚教室	30校	

3) 中学校主催学校説明会

中学校からの依頼により教員や学生を派遣し本校の説明や模擬授業を行った。令和4年度は7月～11月までに33校で実施した。

4) KOSEN FAIR 2022

高専機構主催の高専入学希望者向けオンラインイベントに参加し、オンラインで本校入学希望者向けにアピールを行った。

5) 茨城県進学フェア 2022

NPO法人主催の茨城県進学フェア 2022（水戸会場、つくば会場、筑西会場、日立会場、神栖会場）に参加し、本校の説明を行った。またチラシ（おやこ教育ねっと 2022）及び冊子（茨城県進学フェアデータブック）に広告を掲載した。

6) 一日体験入学

9月24日（土）に1日体験入学を実施した。中学生対象に模擬授業を行ったほか、入試制度説明、キャンパス案内等を行った。事前予約制とし、320名の中学生が参加した。

7) 個別学校見学

中学生及び保護者等からの個別依頼に対応し、施設見学や受験案内等を行った。

8) 入試広報資料の作成

入試広報資料を作成し、中学校や学習塾等へ配布した。

種 類	名 称	部数	備考
チラシ	学校説明・見学会 2023	30,000枚	
パンフレット	キャンパスガイド	5,500部	
パンフレット	学校説明会資料	3,000部	
リーフレット	受験のしおり	3,000枚	

9) 募集要項の作成

本科入学者募集要項は、オンライン化に伴い、従来の冊子での作成をせず、簡易版を配布した。

- ・ 令和5年度本科入学者募集要項 … 2,500部印刷、県内外中学校、学習塾等へ送付
- ・ 令和5年度第3学年編入学者（外国人対象）募集要項 … 高専機構で全国高専作成
- ・ 令和5年度第4学年編入学者募集要項 … 300部印刷、高等学校へ送付
- ・ 令和5年度専攻科入学者募集要項 … 300部印刷

② 入学試験委員会の開催

1) 第1回

開催日：令和4年5月12日（木）

- 議題：1. 令和5年度専攻科入学者推薦選抜試験合格者判定について
2. 令和5年度第4学年編入学試験業務日程（案）について
3. 令和5年度第4学年編入学生募集要項（案）について
4. 令和4年度本科入学試験状況及び新入生アンケート結果について
5. 令和5年度入学者選抜試験日程（案）について
6. その他 令和5年度専攻科入学者推薦選抜試験合格者判定について

2) 第2回

開催日：令和4年6月14日（火）

- 議題：1. 令和5年度専攻科入学者学力選抜試験合格者判定について
2. その他

3) 第3回

開催日：令和4年9月6日（火）

- 議題：1. 令和5年度第4学年編入学生選抜試験合格者判定について
2. 第4学年編入学生選抜試験の出題範囲の変更について
3. タイ政府奨学金留学生・2023年度入学者選抜可否判定について
4. 令和5年度入学者募集要項（案）について
5. その他

4) 第4回

開催日：令和4年10月19日（水）

- 議題：1. 令和5年度入学者推薦選抜試験業務日程表（案）について
2. 令和5年度入学者推薦選抜試験業務担当者選出人員（案）について
3. 令和5年度入学者選抜学力検査、帰国子女特別選抜及び外国人特別選抜試験業務日程表（案）について
4. 第4学年編入学生選抜試験範囲の変更について
5. その他

5)第5回

開催日：令和5年1月11日（水）

- 議題 1. 令和6年度入学者選抜試験日程について
2. 令和6年度専攻科入学者推薦選抜試験業務日程について
3. 令和6年度専攻科入学者学力選抜・社会人特別試験業務日程について
4. 令和4年入学者推薦選抜試験の実施について
5. その他

6)第6回

開催日：令和5年1月19日（木）

- 議題：1. 令和5年度入学者推薦選抜試験合格者判定について
議題：2. 令和5年度入学者推薦選抜試験追試験について
議題：3. その他

7)第7回

開催日：令和5年2月3日（金）

- 議題：1. 令和6年度専攻科入試について
2. 令和5年度入学者選抜学力検査の実施について
3. その他

8)第8回

日時：令和5年2月6日（月）

- 議題：1. 令和5年度入学者推薦選抜試験（追試）合格者判定について

9)第9回

日時：令和5年2月15日（水）

- 議題：1. 令和5年度入学者選抜学力検査の合格者について
2. 令和5年度入学者選抜学力検査（追試）入学試験業務日程について
3. その他

10)第10回

日時：令和5年3月1日（水）

- 議題：1. 令和5年度入学者選抜学力検査（追試）の合格者について

11)第11回

日時：令和5年3月16日（木）

- 議題1：専攻科学生選抜基準の改正について
2：令和6年度専攻科学生募集要項について

③入学試験の実施

1) WEB 出願の導入

令和5年度入学者選抜試験より、WEB出願(miraicompass)を導入した。WEB出願の導入により、従来の紙の入学願書からオンライン上での入力へ変更され、受験料の支払いもオンラインで済ませることが可能となり、手続きが簡素化された。

2) 新型コロナウイルス等の感染症に対応した試験実施のガイドライン(高専機構学務課)に基づき試験を実施した。

◇推薦選抜(会場:本校)

- ・WEBエントリー:令和4年12月9日(金)~令和4年12月26日(月)
- ・出願書類受付:令和4年12月22日(木)、23日(金)、26日(月)
- ・本試験日:令和5年1月17日(火)
- ・合格内定者発表:令和5年1月23日(月)

◇推薦選抜【追試験】(会場:本校)

- ・追試験日:令和5年2月2日(木)
- ・合格内定発表:令和5年2月8日(水)

◇学力検査選抜(会場:本校・つくば国際会議場)

- ・WEBエントリー:令和5年1月10日(火)~1月27日(金)
- ・出願書類受付:令和5年1月24日(火)~1月27日(金)
- ・本試験日:令和5年2月12日(日)
- ・合格者発表:令和5年2月17日(金)

※帰国子女特別選抜試験、外国人特別選抜試験は無し

◇学力検査選抜【追試験】

- ・追試験日:令和5年2月26日(日)
- ・合格発表:令和5年3月2日(木)

○令和5年度本科入学者試験状況

学科	入試全体					推薦選抜			学力選抜		
	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	出願倍率	出願者数	受験者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数
国際創造工学	200	329 (71)	328 (71)	209 (47)	1.6	132 (37)	132 (37)	73 (17)	256 (54)	252 (53)	136 (30)

※下段()は女子で内数

学科	帰国子女特別選抜			外国人特別選抜			入学者数	タイ留学生入学者数	入学者数合計
	出願者数	受験者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数			
国際創造工学	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	198 (46)	2 (2)	200 (48)

※下段（ ）は女子で内数

◇入学手続き・説明会：令和5年3月3日（金）

新型コロナウイルス感染防止のため、昨年と同様に開催、

3) 令和5年度第3学年編入学試験（外国人対象）

国立高専機構本部統括による外国人（私費留学生）対象の第3学年編入学試験

*本校第3学年編入学試験（外国人対象）合否判定基準に基づき合否を判定するが、本校への志願者はなし。

4) 令和5年度第4学年編入学試験

- ・編入学願書受付：令和4年8月2日（火）～8月4日（木）
- ・編入学試験：令和4年9月1日（木）
- ・合格者発表：令和4年9月9日（金）
- ・編入者説明会：令和4年12月6日（火）
- ・入学手続き説明会：令和4年3月6日（月）

○ 令和5年度第4学年編入学者試験状況

募集主専攻系	出願者数（高校：科）	受験者数	合格者数	入学者数
機械・制御系	2（機械1、普1）	2	0	0
電気・電子系	2（電気2）	2	1	1
情報系	6（機械1、普1、情報2、工学1、その他1）	6	4	4
化学・生物・環境系	0	0	0	0
合計	10	10	5	5

5) 令和5年度専攻科入学者選抜試験

推薦選抜

- ・願書受付：令和4年4月26日（火）～4月27日（水）
- ・面接試験：受験者が全員本校学生のため面接はなし。
- ・合格者発表：令和4年5月17日（火）

学力選抜

- ・願書受付：令和4年5月30日（月）～6月1日（水）
- ・学力検査：令和4年6月11日（土）

※社会人特別選抜は、出願者なし

- ・合格者発表：令和4年6月17日（金）

○ 令和5年度専攻科入学者選抜試験状況

産業技術システムデザイン工学専攻（募集定員：20人）

専攻科コース	推薦選抜		学力選抜			入学者数
	出願者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数	
機械工学	0	0	3	0	0	0
電気電子工学	4	4	10	8	4	5

情報工学	9	9	11	6	4	11
応用化学	7	7	7	6	4	7
合計	20	20	31	30	12	23

他高専・社会人の出願者なし

④令和5年度外国人留学生の受入

学年	学科(系)	性	国籍	身分	備考
1年	化学・生物・環境系	女	タイ	政府派遣	第6期タイ政府奨学金留学生受入事業
	化学・生物・環境系	女	タイ	政府派遣	
3年	電気・電子系	男	ベナン	国費	
	情報系	男	インド	国費	
	情報系	男	マレーシア	政府派遣	
	情報系	女	マレーシア	政府派遣	
	化学・生物・環境系	女	ラオス	国費	

(2) 自己評価(改善含む)及び課題

①入試広報活動

地区別学校説明会を3年ぶりに再開し、KOSEN FAIR や茨城県進学フェアなどの進学イベントにも積極的に参加した。地区別学校説明会では、新たな取り組みとして、本校学生による学校説明を取り入れ、より受験生に近い視点で学生生活や受験の取組等を伝えることを行った。茨城県進学フェアでは、冊子及びチラシに広告を掲載した。

②本科入学試験(WEB出願導入)

今年度より、本科入学試験でWEB出願(miraicompass)を導入した。昨年に比べ手続きが簡素化された。

③本科入学試験(つくば会場)

3年ぶりに県南での入試を行った。つくばエクスプレス沿いの中学生も受験しやすいように、つくば国際会議場を会場とした。県南地区の受験者は以下のとおり増加した。

<県南地区受験者>

R5	R4	R3
84名	37名	49名

④専攻科入学試験

近年の専攻科学力選抜の状況にあわせて、専攻科学力選抜基準の見直しを行った。

⑤過去3年間の学力検査による選抜合格者の5教科合計(600点満点)の最高点、最低点及び

平均点は次のとおりである。

	最高点	最低点	平均点	志願倍率
令和3年度	537	352	426	1.5
令和4年度	556	362	434	1.4
令和5年度	527	382	440	1.6

(3) 今後の展開

- ① 志願倍率が1.6倍まで上昇したが、引き続き広報活動を積極的に行い、志願倍率をさらに引き上げられるように戦略的に取り組みを行っていく必要がある。

2. 教育内容等（教務委員会）令和4年度

令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をした上で、下記とおり対面授業を基本として授業を実施した。

4月5日（火）：入学式

4月6日（水）：始業式

6月1日（水）～6月7日（火）：前期中間試験

7月27日（水）～8月3日（水）：前期期末試験

8月10日（水）：前期授業終了

8月24日（水）～8月30日（火）：夏季集中講義を対面形式で実施

9月20日（火）：後期授業開始

11月15日（火）～11月21日（月）：後期中間試験

1月25日（水）～2月1日（水）：後期期末試験

3月6日（月）：登校日

3月17日（金）：終業式

3月18日（土）：卒業式・修了式

（1）取組実績

学生の教科履修及び学籍等については、教務委員会において立案の上、次の活動を行った。

①キャリア教育

国際創造工学基礎（1年）にキャリア教育を導入した。また、共有ドライブを活用して、就職情報を学生へ情報共有した。

②ボランティア活動の支援

無報酬のボランティア活動で総活動時間が30時間のものは、「社会貢献」として単位化しているが、令和4年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止の影響を受けて学生を受け入れてくれる機関が少なく、「社会貢献」の単位認定は2名のみ。

③モデルコアカリキュラムによる教育の質保証の取組推進

CBTを12月20日（火）に本科1年生、1月10日（火）に本科2年生、12月22日（木）に本科3年生を対象に実施した。

④インターンシップの単位認定

令和4年度のインターンシップの単位認定者は本科54名、専攻科29名であった。

⑤セキュリティを含む情報教育

「情報リテラシー」の授業において、セキュリティを含む情報教育を行った。

⑥Web による履修登録

令和4年度も令和3年度に続き選択科目の履修申請を Microsoft Forms による Web 登録方式にて行い、登録作業の効率化を図った。

⑦主専攻・副専攻の決定

国際創造工学科5期生（令和3年度入学）の主専攻・副専攻配属を本人の希望と成績順位により決定し、以下のとおり配属された。希望した系への配属割合は、第1希望 89.8%、第2希望 8.2%、第3希望 2%であった。

＜主専攻＞	機械・制御系	78名（第1希望68名）
	電気・電子系	38名（第1希望29名）
	情報系	40名（第1希望40名）
	化学・生物・環境系	39名（第1希望39名）
＜副専攻＞	機械・制御系	46名
	電気・電子系	45名
	情報系	30名
	化学・生物・環境系	46名
	グローバル系	28名

⑧規則等に関すること

実態に合った内容に修正するため、以下の規則の改正及び申合せの改正を行った。

- ・特別学修の単位の認定及び茨城工業高等専門学校で修得すべき科目とみなす単位の認定に関する規則の一部改正

⑨令和4年度教務委員会

令和4年度は以下のとおり委員会を2回、メール審議を24回開催した。

回数	開催日	議題
メール 第1回	令和4年4月7日	1. 茨城大学（前期）科目の履修について 2. 豊橋技科大 e-ラーニング（前期）科目の履修について
メール 第2回	令和4年4月18日	1. 休学について 2. 知識・技能審査単位認定について 3. 退学について
メール 第3回	令和4年5月25日	1. グローバル研修の代替研修案について 2. 知識・技能審査単位認定について

メール 第4回	令和4年6月10日	1. 実践英語の代替案について 2. 休学者について 3. 転学者について
メール 第5回	令和4年6月22日	1. 学生の転学について
メール 第6回	令和4年7月19日	1. 学生の転学について 2. 病欠等による欠席オーバーの取扱いに関する申合せ適用 依頼について
メール 第7回	令和4年7月25日	1. 休学について 2. 知識・技能審査単位認定について 3. 他大学等履修申請について 4. 病欠等による欠席オーバーの取扱いに関する申合せ適用 依頼について
メール 第8回	令和4年7月27日	1. MIPPE プラスへ参加した学生への社会貢献単位認定に ついて
メール 第9回	令和4年8月9日	1. 留学期間変更について
メール 第10回	令和4年8月15日	1. 休学について 2. 退学について
メール 第11回	令和4年8月23日	1. 学生の退学について 2. 知識・技能審査単位認定について 3. 他大学等履修申請について
メール 第12回	令和4年9月6日	1. 学生の休学について 2. 他大学等单位申請について
メール 第13回	令和4年9月14日	1. 研究生の退学について 2. 高専間提供科目の履修申請について
メール 第14回	令和4年10月3日	1. 富山高専（後期）科目の履修について 2. 本校が提供する高専間提供科目への他高専在籍学生の 履修について
メール 第15回	令和4年10月12日	1. 学生の転学について 2. 他大学等科目の単位認定について
メール 第16回	令和4年11月17日	1. 学生の転学について 2. 他大学等科目の単位認定について 3. 知識・技能審査単位認定について
メール 第17回	令和4年11月29日	1. 学生の転学について 2. 社会貢献活動実施（事前）について

メール 第 18 回	令和 4 年 12 月 16 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践英語の代替語学研修プログラムの単位認定について 2. 特別学修の単位の認定及び茨城工業高等専門学校で修得すべき科目とみなす単位の認定に関する規則の一部改正(案)について
メール 第 19 回	令和 4 年 12 月 23 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会貢献活動実施(事前)について
メール 第 20 回	令和 5 年 1 月 10 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の転学について 2. 病欠等による欠席オーバーの取扱いに関する申合せ適用依頼について
メール 第 21 回	令和 5 年 1 月 17 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の転学について 2. 他大学等科目の履修申請について 3. 知識・技能審査単位認定について 4. 社会貢献活動単位認定について
第 1 回	令和 5 年 2 月 17 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 復学について 2. 退学について 3. 社会貢献について 4. 知識・技能審査による単位認定について 5. 実践英語の単位認定について 6. 令和 5 年度行事予定表について 7. 数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)プログラムの運用指針について
メール 第 22 回	令和 5 年 2 月 24 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退学について 2. 他大学等履修者の単位認定について 3. 高専間単位互換履修者の単位認定について 4. 本科生のインターンシップ単位認定について 5. 本科生のインターンシップ単位認定について
メール 第 23 回	令和 5 年 3 月 6 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 休学について 2. 退学について 3. 他大学等履修者の単位認定について 4. 高専間単位互換履修者の単位認定について 5. 社会貢献活動の事前申請について
メール 第 24 回	令和 5 年 3 月 9 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退学について

第2回	令和5年3月23日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会貢献活動の単位認定申請について及び卒業認定について 2. 休学について 3. 退学について 4. 転学について 5. 令和5年度聴講生の延長申請について 6. 令和5年度研究生について 7. 数理データサイエンスAI教育プログラム学生アンケートについて 8. 令和5年度高専間提供科目の履修生募集について
-----	-----------	--

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 令和4年度も選択科目の履修申請を Microsoft Forms による Web 登録方式として登録作業の効率化を図った。

(3) 今後の展開

- ① 高専機構全体で進めていた高専学生情報統合システムの導入を令和2年度に高専機構本部が断念したことにより、本校にて平成14年度に導入してから現在まで使用している教務システムの更新について検討が必要である。

3. 教育内容等（専攻科委員会）

（1）取組実績

専攻科の教科履修及び学籍等については、専攻科委員会において立案の上、次の活動を行った。

①専攻科入学者の確保

本科の学生が専攻科に魅力を感じて進路先として選択してくれるように、学協会で受賞した専攻科学生の記事、専攻科最優秀研究発表賞（旧：専攻科長賞）の受賞者の紹介を、本校専攻科 HP へ掲載した。

②地域社会及び産業界との連携

令和4年度の特別実験においても、地元の企業が抱える様々な課題を提供してもらい、本校の学生がそれらの課題解決に取り組み実践力を養うことを目的とした地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム（Ibaraki Regional Mutually Inductive Problem-solving Practical Education Program 略して「MIPPEプログラム」）を実施した。

③特例適用専攻科に係る変更の届出

令和5年度入学生から適用する学修総まとめ科目の指導教員について3名（新規2名、専攻の区分の追加1名）が申請を行い、3名全員の申請が認められた。このことにより、令和5年4月1日現在での学修総まとめ科目担当教員は30名となった。この30名には⑤で記載する令和4年度特例適用専攻科の教育の実施状況等の審査において学修総まとめ科目の審査結果が「不適」となった8名の教員は含まれていない。

④特例適用による学位申請

特例適用専攻科として、学位規則第6条第1項に規定する学士の学位の授与の特例に係る学位授与申請を独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に行い、専攻科2年生全員（20名）が学位を取得した。

⑤特例適用専攻科に係る教育の実施状況等の審査

令和3年9月28日付の通知 令和4年度特例適用専攻科の教育の実施状況等の審査の実施について により、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構へ審査に係る書類を期日までに提出した。

令和5年2月17日付の通知 令和4年度特例適用専攻科に係る教育の実施状況等の審査結果について により、茨城工業高等専門学校 産業技術システムデザイン工学専攻は「適」と認められた。しかしながら、学修総まとめ科目担当教員については、8名の教員が「不適」と判断され、令和5年度から特別研究Ⅱの担当を外れることとなった。

⑥令和4年度専攻科委員会

令和4年度は以下のとおり委員会を5回開催した。

回数	開催日（期日）	議題
第1回	令和3年5月14日	1. R3年度専攻科コース担当教員について 2. R4年度からのカリキュラム改定および科目表の変更申請の準備について (ア) 3つのポリシーおよび科目配置図について (イ) シラバスの作成について (ウ) 科目表の作成および確認について (エ) 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書（総表）の確認について (オ) 規則改正手続き（教育課程表の改訂）
第2回	令和3年7月14日	1. 単位認定について 2. R4年度からのカリキュラム改定および科目表の変更申請の準備について (ア) 3つのポリシーおよび科目配置図について (イ) 教育課程表（案）の一部変更について (ウ) 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書（総表）の確認について (エ) 科目表の作成および確認について (オ) 新規科目，統合科目のシラバス準備状況 (カ) 規則改正手続き（教育課程表の改訂）
第3回	令和3年11月24日	1. R4年度以降の特別実験について 2. インターンシップの単位認定について 3. 専攻科申し合わせの一部改正について（専攻科生のTOEIC 公開テスト受講料補助）
第4回	令和4年1月19日	1. 専攻科推薦入試の出願資格について 2. 定員割れ対策
第5回	令和4年2月21日	1. 専攻科2年生単位修得認定について 2. 専攻科最優秀研究発表賞 3. 専攻科生の修了に向けて 4. 令和4年度入学予定学生へのガイダンス 5. 入学式 6. 隔年開講科目の旧カリキュラムと新カリキュラム混在時の対応について 7. 特例適用専攻科の審査について

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 特例適用による学位申請については、今年度で5回目の対応であり、円滑に手続きを進め、専攻科2年生全員が学位を取得することができた。学生の申請不備はまだ一定数ある状況なので、来年度申請する学生に対し、申請時に間違いやすい点を周知する。
- ② 本科の学生が専攻科に魅力を感じ進路先として選択してくれるように、専攻科の活動の様子をホームページで積極的に紹介するようにした。今後も、専攻科の志願者が増えるよう本科の学生に対して魅力を周知していく。

(3) 今後の展開

- ② 特別研究の充実・成果発表の英語化については、今後も引き続き取り組んでいく。
- ③ 令和5年度も地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム（Ibaraki Regional Mutually Inductive Problem-solving Practical Education Program 略して「MIPPEプログラム」）の実施を継続するため、協力企業を募集する。同時に、キャリア教育の一貫として、技術者、研究者、経営者による講演会における講師も併せて募集する。

4. 学生委員会

(1) 取組実績

① 課外活動支援

課外活動の取り組みについては、コロナウイルスの感染に注意しながら支援を行った。

部・同好会指導（顧問）教員は、感染症防止計画書を学生主事へ提出し、学生主事許可の上、課外活動の再開が認められた。課外活動中は終始指導（顧問）教員が活動現場にて貼りつくことを義務とし、課外活動を行う団体は、活動開始時に健康チェックシートを提出し、指導（顧問）教員が取りまとめて学生支援係へ提出することにより、学生の課外活動参加者を追跡できるようにした。

大会の参加において、移動手段は公共交通機関を極力使用せず、貸し切りバスを使用した。

以下の部活において外部コーチを委嘱した。

- ・弓道部、柔道部、ロボット部、卓球部、茶道部、吹奏楽部

以下今年度の体育大会、コンテスト等での実績。

■運動部

関東信越地区高等専門学校体育大会結果

- ・陸上競技
 - ：藤田正勝 1500m 第1位
 - ：吉田光太郎 走高跳 第1位
 - ：大塚隆道 走高跳 第2位
 - ：小山瑠奈 女子走幅跳 第2位
- ・水泳競技
 - ：梅内 星弥 800m自由形2位、200m平泳ぎ2位
 - ：高野 広乃 100mバタフライ2位
- ・硬式野球競技 : 準優勝
- ・バレーボール競技 : 男子団体 優勝
- ・バスケットボール競技 : 予選敗退
- ・サッカー競技 : 4位
- ・テニス競技 : 3位以下
- ・ソフトテニス競技 : 男子ダブルス3位入賞 高橋 翔太・高橋 翔生
- ・卓球競技 : 3位以下
- ・バドミントン競技 : 女子ダブルス準優勝 榎本 優衣・植村 紗愛
女子シングルス優勝 榎本 優衣
- ・柔道競技 : 3位以下
- ・剣道競技 : 3位以下

全国高等専門学校弓道大会 関東信越地区予選（通信弓道大会）

- ・弓道部 : 男子団体優勝
女子団体優勝
男子個人 助川 恒成 全国出場
女子個人 谷津 心優 全国出場
三村 唯月 全国出場

全国高等専門学校体育大会

- ・陸上競技 : 藤田正勝 1500m 第7位入賞
- ・水泳競技 : 梅内 星弥 800m自由形5位入賞
: 高野 広乃 100mバタフライ6位入賞
- ・バレーボール競技: 予選リーグ敗退
- ・バドミントン競技: 初戦敗退

全国高等専門学校弓道大会

- 弓道部 : 男子団体戦予選敗退
女子団体予選敗退
男子個人 助川 恒成 4位

■文化部系

全国高等専門学校弓道大会

- ・将棋部 : 男子団体3位

Thailand-Japan Game Programming Hackathon Winner 受賞

SEMICON®JAPAN2022 THE 高専プレゼン大会 優勝

国際会議 7th STI-Gigaku 2022 Best Research Presentation Award 受賞

関東磐越地区化学技術フォーラム 口頭発表優秀発表賞受賞

全国高等専門学校プログラミングコンテスト 敢闘賞受賞

関東信越地区高等専学校英語弁論大会 Honorable Mention

理事長表彰

- ・5I インタウォン・カモンパット
(査読付き学会誌(JP Journal of Geometry and Topology)に筆頭著者として論文掲載)

以下大会において大会の運営を行った。

関東信越地区高等専門学校体育大会

- ・バドミントン競技：7月9日（土）～10日（日）@ひたちなか市総合運動公園総合体育館

② 学費に関すること

奨学金、授業料免除および就学支援金に関する情報は校内掲示板、HP 掲載、保護者への文書通知等により情報提供を行った。

- ・奨学金一覧（○）は受給実績あり
 - ・日本学生支援機構 貸与型（○）
 - ・日本学生支援機構 給付型（○）
 - ・若築建設奨学金（○）
 - ・岸川光男記念奨学基金（○）
 - ・中川育英会奨学金（○）
 - ・朝鮮奨学会（○）
 - ・天野工業奨学金（○）
 - ・水戸市奨学金（○）
 - ・龍ヶ崎市奨学金（○）
 - ・オリエンタルモーター奨学財団奨学金（○）
 - ・富山文化財団奨学金（○）⇒新規
 - ・川村育英会（○）⇒新規
 - ・古岡奨学会奨学金
 - ・茨城県奨学金
 - ・ウシオ財団奨学金
 - ・あしなが育英会奨学金
 - ・交通遺児育英会奨学金
 - ・アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学生
 - ・関育英奨学会
 - ・山新育英財団奨学金
 - ・ひたちなか市奨学金
 - ・日立市奨学金
 - ・大洗町奨学金
 - ・つくばみらい市
 - ・常陸太田市
 - ・日本国土開発未来研究財団奨学金
 - ・本庄国際奨学財団奨学金
 - ・宇野澤奨学会

- ・入学料免除（減免）：3名
- ・授業料免除（減免）前期：全額免除（減免）24名 2/3 減免8名 1/3 減免5名 半額免除1名
- ・授業料免除（減免）後期：全額免除（減免）22名 2/3 減免7名 1/3 減免8名 半額免除1名
- ・茨城工業高等専門学校修学支援事業基金
前期 0名、後期 0名
- ・日本学生支援機構奨学生
第1種 5名、第2種 5名

③ 学生会活動

- ・令和5年度学生会長選出
龍崎 創平（化学・生物・環境系3年） 会長選挙投票率44.2%
- ・リーダーズミーティング
- ・学生会と学校長との懇談会
- ・校内レクリエーション
(バドミントン大会・卓球大会・スマブラ大会・クイズスタンプラリー、部活対抗リレー大会)

④ イベント

芸術鑑賞会

- ・12月22日（木） 内容：音楽（JAZZ）

校内体育大会

- ・10月4日（火）

新型コロナウイルス感染症予防のため、接触を避けた種目に変更のうえ開催。

ビブス着回しを避けるため、代替としてカラー養生テープを使用。

茨香祭

- ・11月22日（土）～23日（日）2日間開催

1日目：小学生・中学生・在校生及びその保護者限定として一般公開（事前予約制）。

2日目：在校生限定として開催。

⑤ 学生への安全指導

学生の安全指導に関し、以下セミナーを実施した。

- ・非行防止講演会（1年）オンラインと対面
- ・薬物乱用防止講演会（2年）オンライン
- ・サイバー犯罪防止講演会（2年）オンライン
- ・交通安全防止講話（スケアード・ストレイト）（1年・3年）対面
- ・消費生活講演会（3年）対面
- ・年金セミナー（5年）オンライン

学生主事・主事補で、校外巡回を複数回行った。

⑥ 施設改修

- ・平日の合宿研修所を課外活動施設として開放
- ・Google カレンダーを用いて、学生へ施設予約状況を見える化（体育館・合宿研修所）

⑦ 預り金

- ・4団体が預り金規則に基づき、使用継続。うち1団体が年度末に使用を停止した。
- ・1団体が使用開始。

⑧ いじめ対策

- ・年度計画どおり年6回のいじめ対策委員会を実施。また、校内で発生したいじめ事案に対応するため、臨時で1回いじめ対策委員会を実施した。
- ・いじめ相談窓口相談1件あり。学生主事を中心に校内で連携し、適切に対処した。
- ・いじめ防止強化週間内に学生へのアンケートを実施。いじめ相談窓口の学生の認知度向上がみられた。

⑨ 懲戒処分を伴う学生の問題行動への対応

- ・懲戒規則を適用する学生の問題行動はなかった。
- ・懲戒規則に該当しないが、軽微なマナー違反など、学生指導を行う必要がある事案について

は、担任

及び学生主事・学生主事補が連携をとり、状況に応じて適宜指導していくこととした。

⑩規則制定、改正及び廃止

- ・地方公共団体及び民間団体等奨学生推薦順位に関する申合せ制定。
- ・課外活動に係るあり方と方針の制定。
- ・茨城工業高等専門学校プール使用心得の改正
- ・茨城工業高等専門学校シャワー室使用心得の改正
- ・コーチ謝金の取扱いに関する申合せの改正。
- ・日本学生支援機構奨学生推薦基準に関する申合せの改正
- ・車・バイク通学許可に関する指導方針（申合せ）の改正
- ・授業料免除に関する申合せの廃止

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 課外活動の再開について、学生主事・主事補と十分に検討した結果、競技や活動内容によって、感染症対策の内容が異なることから、団体ごとに感染症防止計画書を作成し、感染症対策を行うことで、再開を認めることとした。感染症防止のため、貼りつき指導や健康チェックシートの提出等、指導（顧問）教員の負担が増えた。新型コロナウイルス感染症予防の上、大会やイベントが再開されたが、大会ごとに感染症対策マニュアルが設けられていた。公共交通機関での移動を制限する内容が含まれた競技もあったため、大会の移動は公共交通機関を避け、貸し切りバスを利用をするよう案内した。

今後は、新型コロナウイルス感染症の感染症法の位置付けが変化した際の、課外活動としての感染症対策の緩和及び学生・保護者への説明が課題となる。

- ② 教育の機会の平等という観点から、意欲・能力のある学生が経済的な面で心配することなく、安心して学べるよう、経済的に困窮している世帯の教育費負担の軽減を図る奨学金等の積極的利用を呼びかけた。新規に2つの奨学金の利用があった。
- ③ 学生の主体的な取り組みを支援した。学生会費執行に係る助言、学生イベント実現のための手続き支援など、引き続き継続して支援を行う。
- ④ 令和2年度から中止となっていた対面のイベントが再開した。1～3年生の学生が初めての大型イベントとなり、先輩からの引継ぎもない中、手探りでイベントの運営等を行った。学生支援係としては、過去の資料から開催に向けて助言を行った。校内体育大会及び茨香祭では実行委員がGoogle classroomを活用することにより、円滑に業務を行えるようにした。資料もDrive内に保存できることから、次の代へ資料を引継ぐよう助言した。

- ⑤ 感染拡大防止を考慮し、オンライン形式をメインで各種セミナーを実施できた。
- ⑥ 図書館棟や創作活動室の改修工事に加え、課外活動の再開や新規同好会の発足に伴い、課外活動可能な施設が不足している状態となった。そのため、平日の合宿研修所を課外活動施設として開放するため整備を行った。
- 第1、2体育館の使用について、常時使用している部活以外での使用希望が増えた。体育館の使用状況は、使用する運動部が4月に使用予定日を紙で提出するため、学生支援係のみ把握し、使用予定のため実際の使用状況と異なることがある。体育館の課外活動での使用状況を見える化するため、Googleカレンダーを導入し、常時使用している部の学生に予定を直接入力してもらい運用を試みた。(第1体育館：バスケットボール部、卓球部 第2体育館：バレーボール部、バドミントン部) 合宿研修所は学生支援係が管理している。カレンダーの運用は、随時改善していく。
- ⑦ 預かり金の取扱いは4団体が継続し、利用していたが、うち1団体は年度末に利用を停止した。高体連からの補助金を受け取るため、1団体が新規で手続きのうえ、利用を開始した。
- ⑧ いじめ対策委員会を年間計画のとおり年6回実施した。いじめ相談窓口の学生認知度も向上し、一定の成果がみられる。今後は、いじめに関する研修の実施、いじめ対策を教職員・学生間で主体的に取り組む場を設けるなど、より全校的な取組みに発展させていく。
- ⑨ 懲戒規則に該当するような学生の問題行動はなかった。問題行動が起きた際は適切に対処できるよ
う、引き続き環境整備を行う。
- ⑩ 学生の経済的支援の見直しを行い、現在の制度に合わせた申合せの制定、改正及び廃止を行った。コーチ謝金の取扱いについては、技術指導コーチ就任に係る制限を撤廃したことにより、1団体1名以上へコーチ委嘱依頼することが可能となり、課外活動指導の向上が期待できることとなった。

(3) 今後の展開

ウィズコロナの社会情勢となったことに伴い課外活動においても令和3年度より実施可能なイベントが大幅増えてきた。学生関係としては感染対策に引き続き留意しつつも、教育の一環として課外活動の一層の促進をはかるべく、必要な対策を講じていく。

5. 寮生支援（寮務委員会）

（1）取組実績

①寮生数について

年度当初寮生数	204人	入居率 73.6% (85.4%)
年度途中入寮者	2人	
年度途中退寮者	12人	
年度末寮生数	194人	入居率 70.0% (81.2%) (卒業生及び年度末退寮生を含む)

3年生までを基本とした学寮であるが、空室がある場合は、入寮更新を希望する新4・5年生のうち、自宅からの距離、リーダーシップ、素行、成績を鑑みて順位付けを行い、指導寮生（補助）として入寮更新を認めている。

新型コロナウイルス感染症対策のため、二人部屋については一人のみの入居とした。また、年度の後半から虹友館の1階を体調不良者の待機場所として確保した。入居率については、それぞれ、従来の定員での入居率（73.6%→70.0%）と新型コロナウイルス感染症対策を行った場合の入居率（85.4%→81.2%）を表している。

②二人部屋の解消

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、新友館の二人部屋を一人で使用する事とした。

③寮生レクリエーションの再開

寮生間交流の実現のため、木曜日のレクリエーションを6月9日から再開した。コロナ禍であるため、寮生を5つのグループ（女子1グループ、男子4グループ、各グループ最大40名）に分割し、1グループずつによる分散ローテーション開催で実現した。実施場所は体育館で、常時換気を実施しながら、マスクなしでの運動を可とした。

④寮生保護者向けのメール配信システム（マチコミ）の継続運用

寮生保護者向けの連絡手段とした構築したメール配信システム（マチコミ）を継続運用し、寮生保護者会総会や同臨時総会の開催、保護者への各種照会、意向確認等において活用した。

⑤寮内設備の充実化

虹友館の運用が開始されたことにより、留学生・短期留学生と日本人寮生の交流の場を確保することができた。また、定員が増えたことで、より多くの寮生を受け入れることができた。

また、防犯カメラを増設し、寮生の安全・安心向上の一助とした。

⑥寮食堂について

老朽化している厨房機器類を更新した。

寮食堂入口に、顔認証付き検温器を設置し、定常的な体温測定環境の構築と個人を特定した検温データを日々の寮生の検温報告に反映

また、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策飛沫防止パネルを各テーブルに設置し、混雑する昼食時間を前半と後半に分ける入替制を実施した。

⑦宿日直業務について

宿日直業務の一部外部委託を継続し、教員の負担軽減を図った。

また、昨年度に引き続き、教員当直リマインドメールの自動配信を実施した。

サイボウズで周知している当直表をCSVファイル化してアップロードするのみで運用が実現し、これにより、教員の当直忘れがなくなった。

⑧避難訓練について

春に火災、秋に地震を想定した避難訓練を実施した。

⑨寮務委員会

第1回 令和4年4月1日(金) メール審議

1. 学生問題行動に関する審議について

第2回 令和4年6月1日(水)

1. 令和3年度寮費決算(案)について
2. 令和4年度寮費予算(案)について
3. 茨城工業高等専門学校寮生心得の一部改正について
4. いじめ調査について
5. 寮生レクレーションの実施方法について
6. 令和4年度学寮運用方針について(報告)

第3回 令和4年8月5日（金） メール審議

1. いじめ調査について

第4回 令和4年8月18日（木）

1. 学生問題行動に関する審議について

第5回 令和5年3月7日（火）

1. 令和5年度学寮運営方針について
2. いじめ調査について
3. その他

⑩学寮行事

期日	内容
令和4年4月4日（月）	開寮、新入寮生オリエンテーション
令和4年4月21日（木）	学寮避難訓練（火災）
令和4年4月28日（木）	簡易閉寮
令和4年5月5日（木）	開寮
令和4年5月18日（水）	寮生総会（寮生会予算・決算）
令和4年6月8日（水）	非常時の在寮確認訓練（暴風雨時点呼）
令和4年6月9日（木）	寮生レクリエーション再開
令和4年6月19日（日）	新入寮生歓迎会
令和4年7月7日（木）	寮生保護者会総会（マチコミメールを使用）
令和4年8月10日（水）	閉寮
令和4年9月19日（月）	開寮、部屋替え
令和4年9月24日（土）	一日体験入学（学寮案内）
令和4年10月1日（土）	キャンパスツアー（学寮案内）
令和4年10月19日（水）	学寮避難訓練（地震）
令和4年10月20日（木）	寮生保護者会臨時総会（マチコミメールを使用）
令和4年10月29日（土）	寮祭（水鉄砲ゲーム、ビンゴ大会）
令和4年12月23日（金）	閉寮
令和5年1月4日（水）	開寮
令和5年2月8日（水）	卒寮生追い出し会
令和5年2月10日（金）	退寮日、部屋替え
令和5年2月20日（月）	閉寮
	寮生保護者会臨時総会（マチコミメールを使用）

令和5年3月3日（金）	新1年生の入寮面談
-------------	-----------

⑩規則等の改正等

- ・「茨城工業高等専門学校寮生心得」の一部改正
- ・「茨城工業高等専門学校寮生会規約」の一部改正

⑪寮生の体調管理

昨年度の新型コロナウイルス感染症の感染予防対策に関する方針を継続し、以下のとおり実施した。

- ・Google フォームによる検温報告に Web アプリ機能を持たせ、過去2週間の検温データの確認と修正・追加を行えるようにした
- ・開寮時は2週間前から平熱が続いていることを条件に入寮を許可した。
- ・寮生が体調不良になった場合は、発熱の目安を37.5度以上とし、風邪に似た症状がある場合には速やかに保護者に連絡をとって帰宅するよう指導した。
- ・定期試験前から定期試験期間中にかけて、第2点呼前まで、談話室でのマスク着用による勉強会を実施した。

また、新型コロナウイルス感染症罹患が疑われる寮生（主に留学生）の病院搬送業務を委託契約した。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらの学寮運営となったが、前年の経験を活かしながら適切に対応することができた。
- ② 一方、従前のように寮生が交流できるような機会を確保するには予断を許さない状況が続いており、いかに寮生間のコミュニケーションを図っていくかは継続した課題である。
- ③ メール配信システム（マチコミ）を導入し、寮生保護者との連絡手段を構築したことはコロナ禍において大変有意義であった。引き続き利用していきたい。

(3) 今後の展開

新型コロナウイルス感染症に対する国の規制が緩和されてきていることから、寮生が安全で過ごしやすい学寮の環境整備を行いつつ、いかに寮生間の交流の機会を確保していかせるかを検討していく必要がある。

6. 広報活動（広報室及び広報委員会）

（1）取組実績

広報活動については、学生、保護者、職員、卒業生及びその他関係機関並びに地域社会に対し本校を正しく認識してもらうことを目的として、広報室及び広報委員会において立案の上、次の活動を行った。

①ホームページの切替及び情報発信

ホームページについては、広報活動の最重要な手段と捉えている。

今年度は、ホームページをより充実させるために、切替に向けた各種検討及び具体的なデザインの策定作業を行った。

広報室が随時ホームページで紹介する本校の各種行事や学生・教職員の活動について、高専機構本部ホームページの「お知らせ」への掲載申請を行った。

②「学校要覧」の刊行

「令和4年度版 学校要覧」について、前年度版のデータ更新を行い、1,000部刊行した。主に求人企業、地域連携機関、入試広報及び来客者等に配布し案内を行った。

③「キャンパスガイド」の刊行

「キャンパスガイド2023」について、前年度版のデータ更新を行い、7月に5,500部刊行した。

学校説明会等で中学生及び保護者へ、中学校訪問時に中学校教諭に配布し案内を行った。

④令和4年度おもしろ科学セミナーの開催

小学生に理科の楽しさを体験してもらうことを目的として、令和4年度おもしろ科学セミナーを開催した。コロナ禍のため、日立市、ひたちなか市、大洗町の小学生を対象とし、Zoom、JWAY生放送を利用したオンライン開講による開催方式とした。当日は95名が受講した。

担 当	テーマ名	受講者数
機械・制御系	すもうロボットを作って対戦しよう！	28
電気・電子系	チチチチ発電	

2)第2回

日時：令和4年12月21日（水）

- 議題： 1. 令和5年度「おもしろ科学セミナー」について
2. 令和5年度公開講座の募集について
3. 令和5年3月『高専だより』について

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 本校教職員や学生の活動について、広報室の方針の下で、引き続きホームページ上で積極的に情報発信を行っていく。
- ② 「学校要覧」については、7月初旬までに刊行することができた。「キャンパスガイド2023」についても広報室主導で掲載内容を改修し、7月までに刊行した。次年度以降も引き続き早期に刊行できるよう進めていく。
- ③ 「高専だより」については、引き続きホームページへ掲載する形での発行を継続し、経費削減の一助とする。
- ④ 「おもしろ科学セミナー」は地元ケーブルテレビ局に協力を仰ぐ等してオンライン形式を充実させての開催であったが、広報室が立案した方針の下、計画どおり実施できた。セミナーは好評であり、受講者アンケートでは回答者全員から「とてもおもしろかった」（約92%）「まあまあおもしろかった」（約8%）旨の回答があった。
- ⑤ 公開講座については、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を考慮して、1講座のみの開設に留まった。令和5年度からは、年度途中から新型コロナウイルス感染症への向き合い方が変更となることが検討されていることから、社会情勢を見据えながら、よりよい学校広報、社会貢献となるよう講座内容の充実、開催方法の多様化などを検討していく。

(3) 今後の展開

独立行政法人の予算が年々削減される中で、経済的かつ効果的な広報の方法の検討が必要となってくる。今後は広報室立案の方針の下で、広報誌やホームページに加えて、公開講座やおもしろ科学セミナー等のイベントを活用しながら積極的に本校の情報を発信していく。

7. 学生健康支援（学生健康センター）

（1）取組実績

引き続きコロナ禍における学生の心身の健康維持及び向上を図るとともに、健全な学生生活を送る援助を行うことを目的として、次の活動を行った。

- ① 学生のメンタルヘルスに関する取り組みを行った。
 - ア. デートDV予防教育セミナー：1年生（オンライン）
 - イ. カウンセリング講座（3：年生（オンライン）
 - ウ. 「相談室だより」の発行（HP掲載）
 - エ. カウンセラーと留学生による個別招待カウンセリング
- ② 教職員が関連するセミナーの開催及び研修会に参加し支援体制の充実を図った。
 - ア. 「発達障害への支援セミナー」の開催（オンライン）
 - イ. 「聴覚障害学生の理解と支援セミナー」の開催：講師（県立聾学校）
 - ウ. 第19回全国国立高専学生支援担当教職員研修会へ参加（学生主事、寮務主事）
 - エ. 令和4年度心の問題と成長支援ワークショップ（JASSO）（オンライン）副センター長
 - オ. 令和4年度障害学生支援実務者育成研修会参加（基礎プログラム）（オンライン）
副センター長
 - カ. 第60回全国学生相談研修会（オンライン）：欠席
 - キ. 令和4年度障害学生支援実務者育成研修会（応用プログラム）：欠席
 - ク. 「茨城産業保健総合支援センター」主催セミナー受講（オンライン）：看護師
 - ケ. エピペン講習会の開催
- ③ 献血を実施した
- ④ 学校環境衛生検査（学校プール水水質検査、騒音検査、空気検査）を実施した
- ⑤ 「こころと体の健康調査」（自殺予防のためのチェックリスト）WEBによるアンケートを実施した。
- ⑥ 定期健康診断を実施した。
- ⑦ 「学生総合補償プラン保険」の募集を行った。
- ⑧ 「日本スポーツ振興センター」の給付金請求事務を行った。
- ⑨ 高専体育大会、学内行事等の救護業務を行った。
- ⑩ 怪我や急病人の対応（応急処置、医療機関付き添い、健康相談、医療機関紹介・連絡）
- ⑪ 学生相談室のインターカー業務を行った。
- ⑫ 「特別支援教育室」における業務補助を行った。
- ⑬ 学生健康センター内打ち合わせを密に実施した。
- ⑭ 新型コロナウイルス感染症予防対策の継続
 - ア. 来室時の呼び出しインターフォンの利用
 - イ. 体調不良者用の休養室の整備

- ウ. サーモ体温測定機の利用
- エ. 非接触型体温計の利用
- オ. 非接触型自動消毒機の利用
- カ. 体調不良者の対応フローの見直し
- キ. 感染予防パネルの利用
- ⑮ 学生健康センターホームページの更新
- ⑯ 学生相談室の整備。
 - ア. WEB 予約導入
 - イ. SC.SSW 勤務時間、体制の見直し
 - ウ. 学生相談室（面談室）の部屋移動
- ⑰ 新入生「健康管理調査書」の有効活用を図る
- ⑱ 救急体制の充実（AED 車椅子）

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① コロナ禍 3 年目となりセミナーをオンラインで実施し、学校生活をより健全に送れるよう情報発信すると共に学生相談室を身近に感じてもらえるよう努めた。
また、グループ形式のカウンセリングを個別による対面形式のカウンセリングへ変更した
- ② ア) オンラインによるセミナーを実施し当日参加できなかった教職員もオンデマンド配信の視聴とした。現場の抱える問題を共有でき幅広い解決策を見出す事に繋がった
イ) 対面形式セミナーでロジャーを体験し聴覚障害への支援について理解を深めた
ウ) オンラインセミナー：参加
エ) オンラインセミナー：参加
オ) オンラインセミナー：参加
カ) オンラインセミナー：欠席
キ) オンラインセミナー：欠席
ク) オンラインセミナー：参加
ケ) 対面形式によりエビペンのデモ製品を使った実技を行い理解を深めた
- ③ コロナ禍での献血の重要性を理解し実施場所や受付方法などを見直し感染対策を講じ大勢の協力を得る事が出来た
- ④ 学校薬剤師により実施し基準値内であり良好な環境である事を確認した。
- ⑤ WEB 形式によるアンケート調査を実施し調査結果の集計作業を迅速に進め「高判定」の学生の速やかな面談を行った。担任とカウンセラーによる情報共有を図った。発達特性を持つ学生の支援体制についても「特別支援教育室」と連携し早期に情報共有し支援に繋がった。
- ⑥ 実施方法について、引き続き万全な感染予防対策を講じ歯科検診においてはダブルミラーによる健診を実施した。健康管理を徹底し有意義な学校生活を送れるように今後も受診率の向上に努める。

- ⑦ 安心して学生生活を送れるよう加入を推奨した。
- ⑧ 学校管理下内での怪我に対して関係教員と情報共有を行い請求漏れが無い様に対応した。
- ⑨ 感染予防対策を万全に行い救護活動を行った
- ⑩ コロナ禍における不意に起こる応急処置や急病に対し感染対策を強化し対処した。
関係者間の連絡を適切に行った。
- ⑪ 体調不良の訴えにより休養する学生に対しスクリーナーを行い、メンタルの問題を抱える学生に対しては、手稲な対応を心掛けゲートキーパーとしての役割を果たせるよう努めた。また、センター長を中心にカウンセラー、教員、センター内スタッフにより適時適切な情報共有を行い対応した。
- ⑫ 教務係との連携に努めカウンセラーを中心に業務補助を行った。
- ⑬ 合理的でより良い支援を行うために、定期的な打ち合わせ以外に随時必要な際には初動が遅れぬよう速やかに課題の解決に取り組んだ。
- ⑭ 引き続き新型コロナ感染症予防対策の取り組み強化を図った。
- ⑮ 学生健康センターを気軽に利用出来るよう必要な情報を簡潔明瞭に掲載する等随時 HP の更新を行った。
- ⑯ コロナ禍において速やかな相談室利用ができるよう体制強化を図った
- ⑰ 「健康管理調査書」の情報共有を行い入学後の速やかな対応に繋げた。
- ⑱ 車椅子、AED 設置における救急体制の充実の継続

(3) 今後の展開

学生健康センターとして、引き続き感染症予防対策の徹底に努め学生が不安なく、充実した学生生活を送れるよう、また、新型コロナ感染症対策に伴った学校生活の環境の変化に、順応出来るよう引き続き支援に努める。コロナ禍の影響に関連したメンタル不調を抱える学生に早期に気づき適切な対応を行える体制づくりの強化を更に努める。
相談室の各部屋のリニューアルに伴い、合理的な使用方法を更に模索し環境整備を進める。
また、引き続き関係教職員、外部機関との連携を密に行い速やかな情報共有を行えるよう努める。

8. 図書館運営（学術総合情報センター）

（1）取組実績

本校図書館は和書・洋書あわせて約9万冊の蔵書があり開架式となっている。コンピュータを用いた図書データベース・電子ジャーナルの検索も充実しており、学生・教職員の学習や調査研究の支援を行っている。

理工系専門図書のほか、文学・哲学などの書籍も多数所蔵している。加えて、平成24年度からは電子書籍を導入し、新しいサービスの提供を開始しコレクションを拡大している。

また、開館時間の延長・土曜日開館を実施することにより利用の拡大を図っている。開かれた図書館として地域市民に閲覧・貸出を行い、地域への貢献を推進している。

① 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施した図書館開館

■ 日本図書館協会の「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」や他高専図書館、大学図書館、近隣公共図書館の開館状況を参考に本校図書館における対策を実施して図書館を開館した。

- 令和2年4月1日から引き続き一般利用者開放の休止（ホームページで案内）
- 短縮開館の実施（時間 8:30～17:00、休館 土・日・国民の休日）
- 閲覧室学習機の座席間隔を空け、座席を半数にして利用を再開（後期から通常座席配置に戻した。）
- 貸出資料返却時のブックポスト（玄関前に有り）利用の推進
- 図書館サービスカウンターの飛沫防止対策の設置
- 入館の際は、入口で図書館利用簿にクラス・氏名を記入し、マスク着用、入口でのアルコール消毒の徹底
- 貸出希望図書をEメールで予約の上、図書館窓口で貸出受取りを実施

② 行事实施

1) 図書館ガイダンスの実施

*新入生対象（クラス単位で説明会を実施）

日 時：令和4年4月18日（月）、19（火）、20日（水）、22日（金）

場 所：視聴覚教室、クラス教室、図書館閲覧室

*新入留学生対象

日 時：令和4年6月30（木）

場 所：図書館閲覧室

留学生向け図書館利用ガイドを作成して配布した。

2) ブックハンティングの実施 (学生図書委員会)

期 間：令和4年5月26日(木)～令和4年6月23日(木)

クラスごとに希望図書を募り、リストを図書館へ提出。

合計100冊の図書を購入した。(経費：後援会費)

3) 図書館カフェの開催

(図書館では、知的情報の拠点を目指すことを活動計画の一つとして挙げており、例年秋季に本校教員の研究に関連したテーマで講演会を開催)

⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止した。

4) 第6回ビブリオバトルの開催

(例年秋季に文章やイラストで推薦本を紹介する本校独自の書評合戦を開催)

募集期間：令和4年9月20日(火)～10月28日(金)

応募総数：13件

投票期間：令和4年11月4日(金)～11月30日(水)

受賞者決定：令和4年12月6日(火)

表彰式：令和4年12月15日(木)12時40分～(場所：視聴覚教室)

受賞	所属	氏名	書名	作者	おすすめポイント
特別大賞	1-3	埜 由衣	告白	湊かなえ	真実を伏せた最悪の復讐劇
特別優秀賞	2-1	熊谷 幸菜	文字禍	中島 敦	解らないのに解るところ
	5C	北 佳	頑張りすぎずに、気楽に	キムスヒョン	言ってほしかった言葉が沢山詰まっている
優秀賞	3E	持丸 理貴	1984	ジョージ・オーウェル	文章から滲み出る抑圧
	3M1	市村 杏介	三日間の幸福	三秋縊	悲恋をも超えた絶対的な愛
	4M2	佐藤 乃莉信	傷物語	西尾維新	人間の化物の境界線の描き方

③企画展示の実施

- 1) 「ブックハンティング図書」の展示（経費：後援会費）
展示物：学生からのリクエスト図書
- 2) 「教員推薦図書」の展示（経費：後援会費）
展示物：先生方より推薦された専門図書・参考書等
- 3) 各賞受賞作品の展示
展示物：2023年本屋大賞受賞作品、第167回・168回 芥川賞・直木賞作品
- 4) 「第6回ビブリオバトル入賞作品図書」の展示
展示物：第6回ビブリオバトル受賞作品
展示期間：令和4年12月9日（金）～

④図書館環境整備

- 1) 座席の削減
新型コロナウイルス感染症予防のため、座席を間引いて利用者間の距離を保つよう座席配置した。
- 2) 入口モニターの活用
新型コロナウイルス感染症予防中の図書館利用の方法や図書館行事、新着図書のお知らせなどこまめに更新し、ホームページと併せて利用者の図書館活用に役立てた。
- 3) 第4期統合図書館システムへ更新
令和3年度から1年延期となった、第4期統合図書館システムへの更新が高専機構本部の調達（長岡技術科学大学との共同調達）により実施された。

⑤各種図書コーナーの配置

- 1) 新着図書コーナー
毎月の継続図書や新着図書を配架。今年度は、学生のリクエスト図書や専門書の購入を積極的に行った。
- 2) 英語試験コーナー
TOEIC、技術英検のテキストや英検、TOEFL、IELTS、GTECの参考書を展示。英語の論文作成やプレゼンテーションに役立つ図書を展示。
- 3) 新書コーナー
岩波ジュニア、岩波、ブルーバックス吉川弘文館の歴史ライブラリー他、文庫シリーズ多数有り。
- 4) シラバスコーナー
その年のシラバスに合わせて毎年見直しを行い、テキストを整備し学年別に配架。
- 5) 大学編入学対策コーナー

6) 進路資格コーナー

資格取得に役立つテキストや参考書、試験問題過去問集等を充実させた。

7) 就活コーナー（4年度新設）

就活に役立つ産業界研究参考図書や適性検査、面接対策図書等を充実させた。

8) F E 受験コーナー

F E 試験（Fundamentals of Engineering Exam）対策の参考書・問題集を配架

9) 本校教員著書コーナー

10) メンタルヘルスコーナー

11) 文芸部「地雷」コーナー

文芸部誌『地雷』を配架し、活動を応援。

12) 留学生コーナー

留学生におすすめの図書を配架。タイ留学生を対象にした英語、タイ語の書籍を整備。

13) グローバルコーナー

グローバル関連の図書、国連関連図書に加え、国際連合広報センター発行の広報誌『Dateline UN』国際協力機構広報誌『mundi』を置き、タイムリーな国際情勢を紹介。

⑥令和4年度整備図書資料

1) ブックハンティング図書 129 冊（後援会より寄贈）

学生図書委員が中心となりクラスごとに選書リストを提出、夏季休業前に購入した。自分たちで選んだ本ということで利用率が高く多数貸出された。

2) 就活図書 51 冊（後援会より寄贈）

企業研究、試験対策、面接対策等、就職活動に役立つ図書を購入した。

新コーナーに展示し多数貸出された。

3) 教員推薦図書 90 冊（後援会より寄贈）

教員から推薦された、学習、レポートに役立つ専門書・参考書、その他お勧めの図書などを購入した。

4) シラバス図書 32 冊（後援会より寄贈）

今年度のシラバスに掲載の図書を購入し、学年ごとに配架した。

5) 留学生用図書 196 冊（予算：日本型高専教育制度の海外展開に向けた体制整備）

ゼミ室での日本語教育や多読活動、留学生との交流に利用された。

6) 専門書 362 冊（後援会より寄贈）

新出題形式対応 TOEIC、技術英検等、資格取得図書を多数購入した。

専門書は新着展示として入口直ぐのカウンター前書架に配架し多数貸出された。

7) 各賞受賞作品 8 冊（後援会より寄贈）

芥川賞・直木賞、本屋大賞受賞作品を購入、展示コーナーを作成した。

8) 教員著書 1 冊（本校 OB 著書 6 冊寄贈あり。）

茨城高専の教員の著書コーナーへ展示した。

⑦蔵書構成等（令和4年度）

1) 図書

分類	和書	洋書	計
総記	3,784	280	4,064
哲学・宗教	3,999	903	4,902
歴史・地理	6,333	242	6,575
社会科学	6,455	308	6,763
自然科学	15,013	2,747	17,760
技術工学	14,341	1,769	16,110
産業	774	17	791
芸術	4,324	106	4,430
言語	6,109	3,231	9,340
文学	18,294	1,457	19,751
計	79,426	11,060	90,486

2) 電子書籍

和書	洋書	計
46	133	179

3) 雑誌

和雑誌	洋雑誌	計
285	127	412

4) 定期購読

- ・国内雑誌：43誌（うち後援会寄贈雑誌21誌）
- ・新聞：5誌（茨城新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、日刊工業新聞）

⑧研究支援活動

1) I L L利用状況

- ・外部図書館からの貸借受付：28件
- ・外部図書館への貸借依頼：43件
- ・I L Lシステム以外の公立図書館との相互貸借：3件

2) 電子ジャーナル利用

電子ジャーナル名	契約形態
Science Direct (Elsevier 社)	高専コンソーシアム
A I P Publishing (American Institute of Physics)	高専コンソーシアム
A P S Physical Review Journals (American Physical Society)	高専コンソーシアム
ScienceOnline (America Association for the Advancement of Science)	高専コンソーシアム
Springer Link (Springer・Nature 社) 高専向けパッケージ	本校個別契約

3) 文献検索データベース利用

データベース名	契約形態
JDreamIII (科学技術振興機構)	高専コンソーシアム
MathSciNet (AMS : American Mathematical Society)	高専コンソーシアム
朝日けんさくくん (朝日新聞データベース)	本校個別契約

⑨ 図書館開館状況、入館者数、貸出冊数 (令和4年度)

* 正規の時間内開館： 平日の午前8時30分～午後5時

* 時間外開館 夜間開館： 平日の午後5時～7時

* 時間外開館 土・日曜開館： 午前10時～午後5時

1) 開館状況 (月別開館日数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
正規時間	20	18	22	21	20	19	21	20	18	18	17	22	236
時間外 (夜間)	0	2	21	21	8	8	21	20	17	16	7	0	141
時間外 (土曜日)	3	4	3	5	0	1	5	4	3	4	1	0	33
時間外 (祝・日曜日)	0	0	1	1	0	0	1	1	0	1	0	0	5
合計 (正規+土・日)	23	22	26	27	20	20	27	25	21	23	18	22	274

2) 入館者数（入館者カウント装置から算出）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
正規時間	3,795	4,079	3,584	4,001	2,185	1,788	
時間外（夜間）	0	170	535	1,071	172	236	
時間外（土曜日）	147	216	104	394	0	107	
時間外（祝・日曜日）	0	0	88	120	0	0	
合 計	3,942	4,465	4,311	5,586	2,357	2,131	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
正規時間	3,014	3,762	2,248	3,696	1,849	1,169	35,170
時間外（夜間）	813	989	424	837	141	0	5,388
時間外（土曜日）	157	356	102	375	17	0	1,975
時間外（祝・日曜日）	35	70	0	118	0	0	431
合 計	4,019	5,177	2,774	5,026	2,007	1,169	42,964

*入館者カウント装置から算出

3) 一般利用者入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和4年度は一般開放を休止した。

4) 利用者区分別貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	78	73	50	38	26	27	40	25	19	18	16	1	411
2年生	14	7	23	9	17	11	16	4	7	4	17	0	129
3年生	76	25	72	48	112	37	93	71	131	44	89	29	827
4年生	122	85	138	89	129	57	170	106	198	155	194	70	1,513
5年生	242	176	178	160	152	77	128	83	90	95	45	4	1,430
専攻科	61	70	41	54	49	36	29	28	48	42	14	8	480
教員	25	61	25	37	35	49	34	25	25	33	20	21	390
職員	272	306	371	222	203	72	317	197	148	231	88	63	2,490
非常勤講師	4	6	3	5	10	14	8	10	6	9	6	16	97
一般	10	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
合計	904	824	901	662	733	380	835	549	672	631	489	212	7,792

*I-Liswave-J 利用者区分月別貸出統計から算出

①会議等の開催

1) 第22回関東信越地区高等専門学校図書館協議会 (Teams オンライン開催)

開催当番校：木更津工業高等専門学校

日時：令和4年11月21日(金) 11:00～

場所：中会議室

出席者：安細 勉 (学術総合情報センター長)、木村 保 (学生課図書・情報係長)、
関 幸子 (図書館司書)

会議内容：各高专からの取組近況報告等の情報交換

研修会 (14:00～)：選書について (講師：木下朋美氏) の解説動画視聴

2) 令和4年度高等専門学校及び技術科学大学図書館情報交流集会

新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、また、感染拡大防止の観点から開催中止。

3) 学術総合情報センター運営委員会

【第1回】令和4年6月1日（金）16:00～ 大会議室

- 議題：1. 学術総合情報センター規則及び運営委員会規則について
2. 2022年度年度計画について
3. 図書館の活動計画について
4. その他

【メール審議】発議：令和4年9月30日（メール審議1）

除籍予定図書リストの各系（部）内照会

令和5年3月14日（メール審議2）

除籍予定図書リストの不用決定審議

決議：令和5年3月22日

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を実施し、閲覧室学習機の座席間隔を空け、座席を半数にして図書館を開館した。後期からは座席を通常配置に戻して開館した。一般利用者への開放は継続停止した。
- ② 時間外開館（19時まで）、土曜日開館、期末試験期間中の日曜開館を再開した。
- ③ 研究支援活動や図書の予約貸出しサービス等を実施するなど、図書館の利用環境を保持できるよう取り組んだ。
- ④ 令和5年度は、学生からの要望に応じて、年間4回の定期試験期間の1週間前の日曜日にも開館することとした。
- ⑤ ブックハンティングや企画展示を実施し、また、各種コーナーの図書を充実させ、更に利用者が増えるよう、図書館利用者の興味をひく取組を推進していく。
- ⑥ 電子ジャーナルの利用料金が年々値上げされていくなか、年々削減される図書館運営経費から必要経費を捻出し、図書館活動の向上と教育・研究情報サービス機能の強化・推進を図る。
- ⑦ 本校ホームページの図書館WEBサイト活用による情報発信や図書館利用サービスを提供するため、サイト内の情報を整理して充実させる。
- ⑧ 図書館管理業務を外部委託契約により実施しているが、今後も継続して実施していく。

(3) 今後の展開

- ① 平成30年4月20日、第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定され、高校生の読書関心度合いの低下、スマートフォンの普及等による読書環境への影響などの現状から、読書習慣の形成に向けての取組、読書への関心を高める取組、自学自習の環境整備などについて検討していく。

- ② 新型コロナウイルス感染症の5類移行後においても、図書館における感染防止対策を継続して実施し、図書館利用者の感染予防に努める。
- ③ 令和4年度に高専機構本部の調達（長岡技術科学大学との共同調達）により、第4期統合図書館システムへ更新されたが、システムに不具合が発生しているため、登録図書データのチェックなど注意が必要である。

9. 情報化推進（学術総合情報センター・情報セキュリティ管理委員会）

（1）取組実績

情報センター等では、ICT 授業や業務を円滑に行えるような環境整備、PC 等の利用におけるサポート及び情報セキュリティ強化等について、次の活動を行った。

①多要素・多段階認証の導入

情報システムサービス Google について、全学生、非常勤講師等を対象に多要素・多段階認証を導入した。

②ソフトウェアライセンス管理

ソフトウェアのライセンス管理を徹底する事を目的として、全教職員に保有しているソフトウェアの調査を実施し、ソフトウェアライセンス管理台帳を作成した。

③有線 LAN の MAC アドレス認証の導入

情報セキュリティ対策として、有線 LAN の MAC アドレス認証を導入した。

④情報セキュリティ教育・訓練

情報セキュリティに対する意識の向上を目的として、全学生及び全教職員対象とした、情報セキュリティ教育を e-Learning で実施し、併せて、誓約書の提出を実施した。

また、教職員対象に、標的型メールの対応訓練を実施した。

⑤学術総合情報センター運営委員会

1) 第1回

日時：令和4年6月1日（水）

- 議題：
1. 令和3年度年度実績について
 2. 令和4年度年度計画について
 3. コンピュータ演習室更新について
 4. 高専統一情報システム台帳作成のためのクライアント調査について
 5. ソフトウェアライセンス調査について
 6. その他

⑥情報セキュリティ管理委員会

1)第1回

日時：令和5年3月14日（火）

- 議題： 1. 業務メールシステムへの多要素認証の導入について
2. その他

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 情報システムサービスへの多要素・多段階認証の導入により、情報セキュリティの強化を図ることが出来た。
- ② ソフトウェアライセンス管理台帳を作成し、ライセンス管理の徹底を図ることができた。
- ③ 全教職員及び全学生へ情報セキュリティの誓約書の提出と e-Learning を実施したことにより、情報セキュリティへの意識付け及び注意喚起を図ることが出来た。

(3)今後の展開

情報セキュリティへの対策は、年々厳しくなっていることから、現在実施している各施策の充実・強化を図りながら、学内のセキュリティ水準や教職員の意識の向上につなげていく。

10. 国際化推進（グローバル教育センター）

（1）取組実績

国際化推進については、グローバル教育センター会議で立案し、筑波大学連携事業、留学生受入及びグローバルエンジニア育成事業などの取り組みについて、各所掌において着実に実行に移した。新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大が続いたため、今年度も原則として海外学生派遣・受入や海外大学への視察等は実施を見送るものの、今後の状況に応じて、個別に検討していくこととした。

①筑波大学連携事業 Global PBL

令和4年8月24日（水）から8月30日（火）の5日間（土日を除く）、筑波大学大学院の外国人留学生をティーチングアシスタントに夏季集中講義：Global PBLを本校にて実施した。今年度のテーマは“Carbon Neutrality by 2050: The World's Most Urgent Mission”で、31人の学生が受講した。

②留学生（正課生）の受入

本科1年次に男子1名、女子1名（タイ）、本科3年次に男子1名、女子1名（マレーシア、モンゴル）の計4名の留学生を新たに受け入れた。

③タイ留学生受入

令和4年度も本科1年次にタイ留学生を2名（5期生）受け入れた。令和4年4月5日に本校へ到着した。令和4年度末におけるタイ留学生在籍者は10名（本科1年：2名、本科2年：2名、本科3年：2名、本科4年：2名、本科5年：2名）であり、6期生（2023年度（令和5年度）入学）まで受入を予定している。

また、令和5年度入学者専攻科推薦選抜試験に本科5年の2名が出願し、合格した。令和5年度に専攻科へ本科5年の2名が進学する。

タイ留学生が確実に専攻科へ進学できるように、専攻科の選抜区分にタイ政府奨学金留学生特別推薦選抜を設けることを専攻科委員会及び入学試験委員会で審議して承認された。これは、令和6年度入学者選抜試験から適用される。

④本校留学生の活動支援

留学生の健康管理のため成人病検診（血液検査）、インフルエンザ予防接種、麻疹抗体検査を実施した。

⑤ひたちなか市国際交流協会との連携

米倉達広校長がひたちなか市国際交流協会の副会長を務めた。グローバル教育センター長はじめ、同センターの関係教員が理事会へ出席し、地域と本校との国際分野での連携を深めた。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症とどう向き合うか試行錯誤を重ねながら、多文化交流グループ主催の「こくさいちゃんカフェ」等のイベントへ本校留学生が参加した他、朝鮮理工大学の学生を受け入れた際には、かけはしグループ／国際交流ひろばグループとの交流や、日本語授業の実施、同協会から紹介を受けた各団体による日本文化体験活動（着物の着付け、日本伝統・おもてなし講座（マナー、おりがみ、ふるしき等）、字手紙、茶道、和太鼓）の実施など多方面にわたった連携を展開することができた。

⑥トビタテ！留学 JAPAN

令和5年度入学生が入学後直ちに留学に向けた準備に入れるよう、グローバル教育センターの教員が新年度早々にガイダンスを行えるよう準備を行った。

⑦グローバルエンジニア育成事業

令和4年度も「持続可能なグローバル社会をけん引する人材育成」事業が、高専機構本部のグローバルエンジニア育成事業として採択された。この事業は、持続可能なグローバル社会をけん引する人材として、英語でのコミュニケーションスキルに加えて、認知能力、社会性、課題発見・解決能力を備えた学生の育成を目指すものである。

令和4年度事業の取組概要は以下のとおり。

番号	実施項目	概要
1.1	グローバル授業の実施	本科2年生の Global Science でSDG'sに基づく課題解決について議論を行い、課題解決についてまとめ(プレゼン)を行った。その内容を PCSHS の ICT フェアで発表し、ディスカッション等の取り組みや現地での交流を深めた。同イベント併催のハッカソンで発表を行った(1位入賞)。
1.2	グローバル授業の設計	Global Science の授業を PBLスタイルで実施した。Project Management の内容についても、学生がよりアクティブに取り組めるよう、具体的なビジネス課題解決というスタイルで授業を実施した。

2.1	キャリア教育の実施	本科3年対象のキャリア教育で、地元企業と協力してオンライン企業研究を行った。地元企業及び大手企業による企業研究会を実施し、4年生のキャリア学習を促進した。グローバルに展開する大手企業も参加し、実際の企業に求められる資質についても多くを学ぶことができた。
2.2	キャリア教育の設計	2021年度の課題抽出をもとに、本校内での組織キャリア支援、地域連携、広報そしてグローバルセンター、各部署間の連携を強め、学生のニーズや問題に対応できる体制を整えた。
3.1	起業家プログラムの実施	本校の地域連携担当部署による、地元企業とのインターンシッププロジェクト(MIPPE, MIPPE+)を実施し、実践的な教育内容の導入にも注力した。
3.2	起業家プログラムの実施	前項に記載のプログラム実施のため、本校の地域連携担当部署やキャリア支援室との連携・協働により、内容の充実化を図っている。
4	学生の海外発表	韓国の朝鮮理工大に訪問し、研修及びその成果発表を現地で行った。タイのPCSHS主催の現地イベントに参加し、本校や日本文化及び技術課題についてポスター発表及び討議を行った。同イベント併催のハッカソンで発表を行った(1位入賞)。
5.1	協定の締結	新型コロナウイルス感染症の影響でもあり、新規の交流締結の案件はなく、前年度までの協定更新内容の継続的な交流を進めた。
5.2	協定に基づく派遣	韓国及びタイにそれぞれ学生を派遣し、現地学生との交流、研修実施及びその成果発表等を現地で行った。帰国後も本校での報告会を実施し、情報発信にも力を入れた。
5.3	協定に基づく派遣	韓国の朝鮮理工大から7名の学生を受け入れ、本校での研修(工学、日本文化)および学生交流を実施した。協定校(フランス、メキシコ等)とのオンライン研修を行った。

⑧グローバル教育センター会議（担当：総務係）

1) 第1回

開催日：令和4年5月25日（水）

- 議 題：1. グローバル教育センター規則・構成員について
2. 令和4年度の年度計画について
3. 令和4年度の業務分担について
4. グローバルエンジニア育成事業に係る令和3年事業報告書及び令和4年度事業計画書等の提出について
5. 令和4年度グローバル教育センター予算について
6. 2021年度タイ政府奨学金留学生受入事業等の取組実績及び2022年度タイ政府奨学金留学生受入事業等の計画の提出について
7. 独立行政法人国立高等専門学校機構本部及び各国立高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準について
8 留学生集中講義について
9 その他
（1）勝田高校の国際教育・科学教育の調査について
（2）留学生の日本語教育について

(2) 自己評価（改善含む）および課題

①筑波大学連携事業 Global PBL

昨年度からグローバル副専攻の学生の必修科目となったため、昨年度並みの受講者数だった。集中講義（対面授業）で開講することができた。

②留学生（正課生）の受入

留学生（正課生）の受入れ時には、住民登録や国民健康保険加入、口座開設、携帯電話購入など各種手続きの支援が必要となってくるが、本科1年生の場合は、年齢が低いことと日本語能力が不十分であることから受け入れ時には更にきめ細やかな支援が必要である。

③タイ留学生受入

タイ留学生の受入は、6期生（2023年度入学）までの予定である。1期生から5期生までに実施した学習・生活支援に係るノウハウや情報を集め、受入れている学生及び今後受け入れる学生に対して、より良いサポートが図れるように関係者と情報を共有する。

④本校留学生の活動支援

留学生の麻疹予防接種については、出身国によって制度や健康管理に対する意識に温度差があるため、必要性について理解してもらうことが困難であるが、学生寮で健康に集団

生活を送るためにも引き続き推奨していく。

⑤ひたちなか市国際交流協会との連携

次年度以降も連携を続け、更なる関係の強化を図っていく。

⑥トビタテ留学 JAPAN

次年度以降も適切に学生へ情報提供を行い、支援していく。

⑦グローバルエンジニア育成事業

令和4年度は、ウィズコロナへの移行期となり、その中で韓国への学生派遣（8月）とタイへの学生派遣（12月）が実施できた。いずれも派遣先との良好な連携により、充実した研修を相互に行うことができた。現状をふまえR5年度は海外研修との関連性を高めたグローバル科目内容の充実、アクティビティとの連動をしっかりと行い、学生の派遣と迎え入れの体制作りを固める。更に本校のキャリア支援や地域共同連携の部署、および広報担当の部署ともしっかりと協働しながら、海外と地域(地元)いずれにおいてもグローバル展開を高め、本校からの情報発信を有効に実施する。

(3) 今後の展開

新型コロナウイルス感染症流行の完全な収束の見通しが立たないことから、令和4年度も学生の海外派遣や受入の実施や年間の留学生行事（歓迎会）も原則として見送り・中止となったが、①筑波大学連携事業 Global PBL の対面授業、②韓国・朝鮮理工大学への学生派遣及び受入れ、③タイへの学生派遣（PCSHS の ICT フェア、ハッカソンでの発表）については実施することができた。

令和5年度は、年度途中から新型コロナウイルス感染症への向き合い方が変更となることから、社会情勢を見据えつつ、コロナ禍で培ったオンライン方式による交流の手法を活かしつつ、再開が見込まれる対面での交流を積極的に検討し、各取組においてより充実した内容の構築を行っていく。

1 1. 男女共同参画推進（男女共同参画推進センター）

（1）取組実績

教育活動全般を通じた男女共同参画の推進、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を図るための環境整備、男女共同参画の意識啓発などを目的とし、男女共同参画推進センター運営委員会で立案の上、次の活動を行った。

①盗撮機器等調査の実施

男女共同参画推進センター運営委員会委員と女性教職員の協力のもと、男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレ、男子更衣室及び女子更衣室の盗撮機器等の有無を目視にて調査し、盗聴器等の不審物が無いことを確認した。

②第二学年対象ジェンダー講演会の実施

LGBT やジェンダーに関する考え方について見識を深めることを目的として、次のとおり講演会を開催した。

- ・ 開催日：令和4年12月6日（火）
- ・ 対象者：第2学年学生
- ・ 講師：にじっぺ茨城 代表 永瀬 大紀氏

③設備整備の実施検討

男女共同参画推進センター運営委員会において、施設・設備に関して女性用に制限せず問題点の情報収集を行った。

④男女共同参画推進センター運営委員会

1) 第1回

開催日：令和4年9月16日（金）

- 議題
1. センターの役割について
 2. 令和3年度活動実績報告について
 3. 令和4年度年度計画について
 4. 令和4年度活動内容について
 5. 盗撮機器等の定期調査について
 6. その他

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 1、2年生を対象に、高専入学を決めるまでの過程やその過程でのジェンダーバイアスの有無、入学後の満足度を問うアンケートを実施した。アンケート結果からジェンダーバイアス解消につながるアプローチを検討し、女子学生の確保に自然とつなげるため、アンケート結果を広報室に共有し、次年度の入試広報に活かすこととした。
- ② 盗撮機器等調査の実施について、女子トイレ、女子更衣室に加えて、男子トイレ、男子更衣室、多目的トイレも調査の対象とした。学生、教職員の不安解消、不審者及び不審物設置防止を目的とし、次年度も引き続き調査を行う。
- ③ 男女共同参画推進センター主催の講演会について、学生の意識向上がみられた。次年度も引き続き開催を開催する。
- ④ 設備整備について、男女共同参画推進センター運営委員会で整備が必要な設備の情報収集を行った。次年度も引き続き、男女問わず施設整備の調査を行い、校内環境向上を図る。

(3) 今後の展開

ジェンダー及びLGBTに関しては重要な課題として捉えており、講演会等を実施して学生及び教職員の見識の向上を図っているが、今後は社会の動向を注視しながら、より一層の見識の向上及び施設の整備を図っていく。

1 2. 地域連携・研究活動（副校長（地域連携・評価）、地域共同テクノセンター）

（1）取組実績

地域連携・研究活動については、研究活動の活性化と、社会・地域との交流を促進するシステムづくりに努め、茨城高専から情報を発信し、教育研究上の成果を社会・地域に積極的に還元する取組を行い社会貢献することを目的として、副校長（地域連携・評価）並びに地域共同テクノセンターにおいて立案し、次の活動を行った。

【副校長（地域連携・評価）】

①茨城高専地域協働サポートセンター（以下「サポートセンター」と記載）関係

1) 茨城高専活動支援

教育研究助成のため（茨城高専ラボの活動支援を目的）として、300,000円の寄付金を受領した。

2) 卒業生の就職相談関係

令和4年度は茨城高専HPに掲載している卒業生就職相談窓口を通しての就職相談はなかった。就職相談依頼からの流れは、

- （1）本校HPの卒業生就職相談窓口を見て本校へ申込
- （2）神野河助教と相談依頼者とのヒアリング日程調整
- （3）ヒアリングの実施（都合が合えば相談依頼者の担任や卒業研究担当教員も同席）
- （4）相談依頼者の就職に対する思いを考慮した上で該当する企業をアドバイス。

②茨城高専ギャラリー2023

1) MIPPE（地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム）企業PR動画審査会の実施

専攻科生が対象となる企業を取材し、間協議を重ねながら制作した動画コンテンツを展示披露するとともに、有識者による審査会を開催し、優秀なコンテンツを表彰した。

2) U12プログラミングコンテストの実施

周先生が開発した「Islay Touch（アイラ・タッチ）」というプログラミング言語を使い、大洗町教育委員会と生涯学習課の協力の下、大洗町の2校の小学校（大洗小学校、南小学校）でゲームプログラミング講習会を実施し、ここでの成果を元に応募された作品を披露するとともに、有識者による審査会を開催し、優秀なコンテンツを表彰した。

3) Islay Touch（アイラ・タッチ）プログラミング体験

周先生が開発した、ゲームプログラミング体験教室を開催した。

4) ドローン操縦体験シミュレーション

茨城高専生が制作した、パソコンを使ってドローンの操縦を体験できるVRゲームを来場者に体験してもらった。

【地域共同テクノセンター】

①茨城高専知財委員会による審査

審査請求等審議：1件、年金納付審議：1件、発明等届審査：1件を実施した。詳細は下記のとおり。

区分	名称	担当教員	審査結果
審査請求等	特願 2022-27118 分析装置並びに分析方法 ※福島高専、福島大学との共同出願	G部 若松教授	承認
年金納付	特許番号 5864962号 熱電変換素子出力制御装置 ※企業との共同出願	E系 関口教授	承認
発明等届	天井裏走行ロボットおよび天井裏配線支援システム	M系 長谷川准教授	承認

②研究成果の外部公表

1)学内からの発信

研究彙報（第58号）（I系 吉成准教授）を作成し、茨城高専ホームページに掲載して外部へ公表している。また、茨城高専シーズ集のPDF版を茨城高専ホームページに掲載している。（掲載場所 HOME/施設センター紹介/茨城高専地域共同テクノセンター）

③校長裁量経費の活用

研究推進経費として1,227,000円をL部 千葉准教授、L部 田村助教、M系 小野寺准教授、C系 岩浪准教授の4名に配分した。

論文投稿支援事業として773,586円をL部 千葉准教授、L部 佐藤(桂)准教授、L部 伊藤講師、G部 二田特命助教、M系 平澤准教授、M系 小野寺准教授、E系 成教授、E系 三宅准教授の8名に支援した。

④ひたちなか市との包括連携協定関係

1)なかネットワークシステム(NNS)関係

6月1日：通常総会・講演会がワークプラザ勝田で開催され、岡本副校長が出席した。

2月15日：NNS新年賀詞交歓会がワークプラザ勝田で開催され、岡本副校長が出席した。

NNSひらめきサロン及び公開講座は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止。

2)市民大学の開講

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止。

3) 青少年のための科学の祭典ひたちなか大会

11月5日、6日にひたちなか市総合運動公園総合体育館にて開催され、茨城高専から下記2件を出展した。

1. 「デジタル祭りだ」①バーチャル空間でのドローン操縦体験
(M系 澤畑准教授、M系 岡本教授)
2. 「デジタル祭りだ」②Islay Touch (アイラ・タッチ) を使ってゲームを作ろう
(I系 周助教、G部 奥出教授)

4) 学童クラブ育成支援充実事業

学童クラブ育成支援充実事業として、ひたちなか市と委託契約を締結。放課後に学校の理科室を利用し、茨城高専の教員 (C系 小林准教授を中心に、L部 原教授、M系 小野寺准教授、M系 村上准教授、E系 服部助教、I系 周助教、C系 佐藤(稔)教授) と学生 (述べ人数) 145名が講師となって、東石川小学校及び長堀小学校の児童 (延べ人数) 360名を対象に理科の実験を中心とした体験活動を行い、児童たちの学習に対する意欲・関心を高める活動を下記の日程で行った。

回	開催月	内 容	開催場所
1	6月	色で遊ぼう	東石川小学校
2	7月	磁石で遊ぼう めめ丸を作ろう	東石川小学校
3	8月	Scratchを使ったAIプログラミング教室 「○」と「→」でつくるゲームプログラミング	長堀小学校
4	9月	光で遊ぼう 空気砲で遊ぼう	東石川小学校
5	10月	空気砲で遊ぼう 磁石で遊ぼう	東石川小学校
6	11月	翼型を作ろう 飛行機で遊ぼう	東石川小学校
7	12月	数字で遊ぼう 人工イクラを作ろう 星を観察しよう	東石川小学校

5) 環境シンポジウム 2023

2月11日に、ひたちなか市が主催による「環境シンポジウム 2023」がひたちなか市文化会館にて開催され、以下の2テーマを学生が発表した。

1. ほしいも加工残渣の悪臭抑制方法の検討と原因物質の化学分析
2. マイクロプラスチック問題解決のために私たちができる活動とその活動が世間に与える影響の評価

⑤大洗町教育委員会との連携

令和2年度より必修化された小学校プログラミング教育の教材を、大洗町教育委員会とともに開発し支援することを目的とした「小学校プログラミング教育教材製作プロジェクト」を継続して実施。新型コロナウイルス感染症の影響により模擬授業は実施できなかったが、製作する教材の対象学年を拡大し、教材の充実を図った。

⑥科学研究費助成事業講習会の開催

開催せず

⑦研究推進委員会の開催

令和4年度は7回実施した。開催日時と議題は下記のとおり。

1) 第1回：令和4年4月5日（火）メール審議（4月8日（金）17時期限）

議題【審議事項】

1. 令和4年度高専一長岡技科大共同研究の申請順位について（申請3件）

2) 第2回：令和4年5月11日（水）メール審議（5月16日（月）期限）

議題【審議事項】

1. 研究彙報第57号（令和3年度）への投稿論文について

3) 第3回：令和4年10月20日（木）

議題【審議事項】

1. 研究推進支援予算について

2. 特許出願審査請求について

3. 特許権の年金納付について

4) 第4回：令和4年12月19日（月）

議題【審議事項】

1. 研究推進支援経費の配分について

2. 令和4年度研究彙報第58号への研究論文の投稿募集について

5) 第5回：令和5年1月24日（火）メール審議（1月27日（金）17時期限）

議題【審議事項】

1. 知的財産権の機構承継について（審議内容：機構承継のための申請の可・否）

6) 第6回：令和5年2月21日（火）

議題【審議事項】

1. 研究成果発信支援経費の配分について

7) 第7回：令和5年3月20日（月）

議題【審議事項】

1. 研究彙報58号（令和4年度）への投稿論文1本について

2. 研究成果発信支援事業要項について

【研究協力・地域連携係関係】

①国内の大学等との連携協定に係る事業

1)筑波大学との連携協定に基づく活動

筑波大学との連携協定に基づき「グローバル工学基礎（PBL 演習）」へ大学院留学生（システム情報工学研究群（科）3人）をティーチングアシスタント(TA)として受け入れ、本校授業の教育指導等を行うことで交流を図った。

また、例年行っている茨城高専専攻科生のインターンシップについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止した。

②外部資金の受入

令和4年度外部資金受入一覧（件数と受入金額）

資金種別	受入件数	受入金額（円）	備考
共同研究	13件	8,994,000円	茨城高専に入金がないものは含まない。
受託研究	1件	363,000円	
受託事業	2件	892,000円	
補助金	0件	0円	
研究助成金	1件	1,010,000円	
寄附金	16件	7,594,000円	教育研究援基金等7件を含む。
受託試験料	0件	0円	
技術相談料	0件	0円	
科研費	14件	直接 13,000,000円 間接 3,900,000円	補助金1件、基金9件、分担金4件

③researchmapへの登録

教員に対して researchmap への登録を依頼し全教員の登録を確認した。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

① 茨城高専ギャラリーは、MIPPE（地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム）企業PR動画審査会を実施した。

② 今年度、ひたちなか市との連携事業として学童クラブ育成支援充実事業が実施され、ひたちなか市や参加者から高評価をいただいている。来年度以降も継続していくことで、地元におけるプレゼンスの向上につなげていく。

③ 小学校プログラミング教育において、ひたちなか市及び大洗町と協力事業を行った。この取り組みについては高専機構も推進しており、今後、この事業を拡充していくための体制整備が必要である。

(3) 今後の展開

教育・研究は、それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献が求められており、こうした社会貢献について茨城高専が社会・地域に還元すること・できることを考え、地域の活性化に繋げていく。

昨今の社会や経済的環境の変化に対応するために、これからの高専には地域産業への貢献や地域創生の機能を取り込むことが期待されている。これまで果たしてきた人材育成中心の役割に加えて、地域産業や自治体との高度な連携が必要になる。ひたちなか市をはじめとする地元自治体や地元企業との連携を強化していくことによって、地域社会のDX及びSDGsに高専が貢献し、その活動を通して、高専学生の教育においても効果を上げていくことが期待できる。

1 3. 教育組織(教員任用審査会)

(1) 取組実績

① 採用

- ・ 令和5年4月1日付けで、後任補充として、一般教養部に講師1人、機械・制御系に講師1人、化学・生物・環境系に助教1人を採用した。
- ・ 令和5年4月1日付けで、専門共通教育部に准教授1人、助教1人を採用した。

② 昇任

- ・ 系・部から推薦のあった候補者5人に対し審査を実施し、令和5年4月1日付けで教授2人、准教授1人、講師2人の昇任人事を実施した。

③ 命免(職務附加)

- ・ 令和5年4月1日付けで専門共通教育部に採用した准教授1人を化学・生物・環境系担当とした。
- ・ 令和5年4月1日付けで専門共通教育部に採用した助教1人を一般教養部担当とした。

④ 再雇用

- ・ 令和5年度再雇用を希望する教員2人に対し、所属系長等から提出された再雇用計画の審査を行い、同人らの再雇用を承認した。

⑤ 特命教員

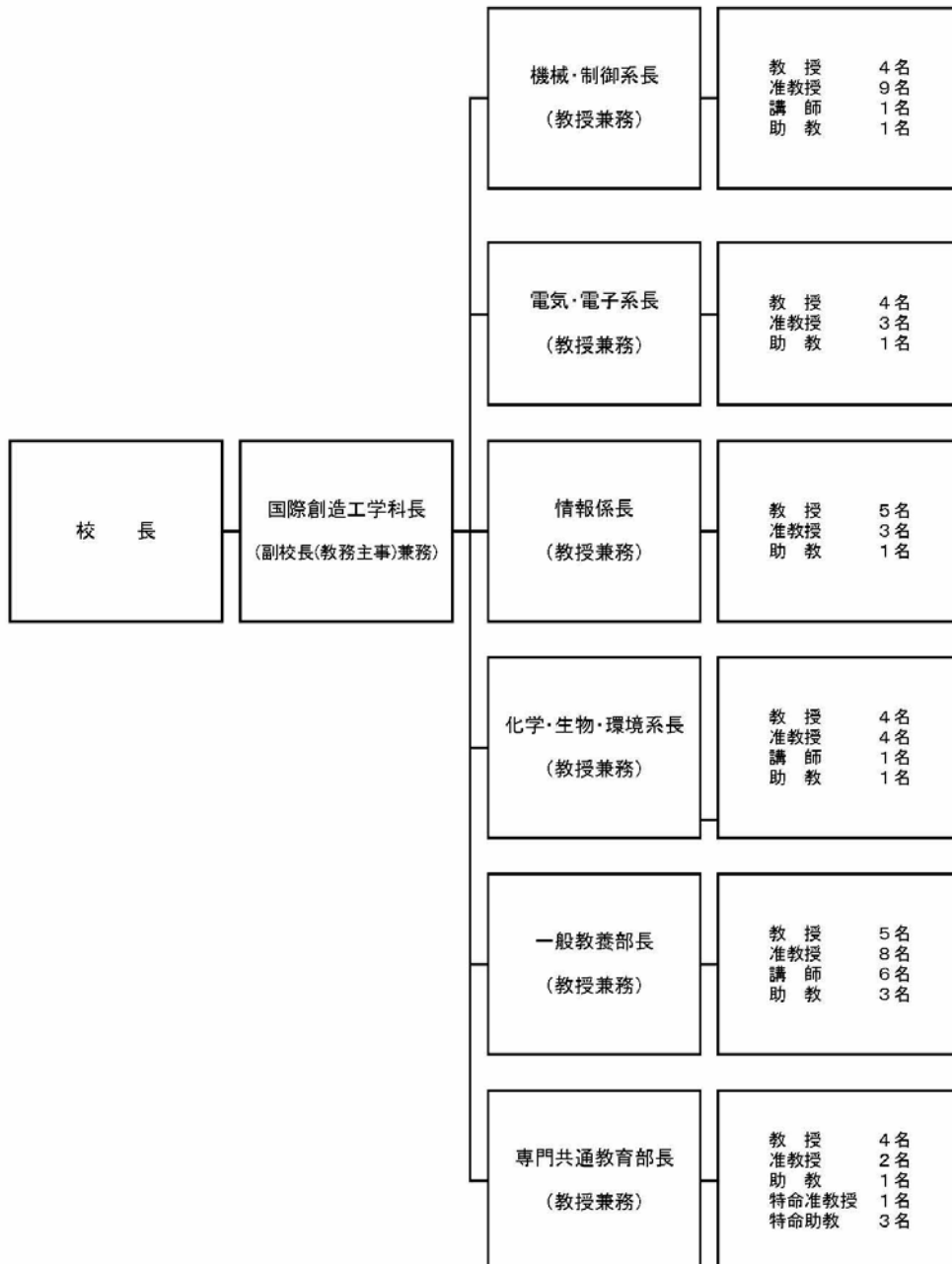
- ・ グローバルエンジニア育成事業に携わる者として雇用された特命助教1人について契約更新を行うことが確認された。
- ・ 令和5年4月1日付けで、タイ留学生の受け入れに係る事業に携わる者として、専門共通教育部に特命准教授1人(日本語)、特命助教1人(自然科学)を採用し、一般教養部担当とした。

⑥ 非常勤講師

- ・ 令和4年5月13日付けで、通年開講授業科目を担当する非常勤講師1人を採用した。
- ・ 令和4年9月1日付けで、後期開講授業科目を担当する非常勤講師1人を採用した。
- ・ 令和4年9月1日付けで、通年開講授業科目を担当する非常勤講師1人の契約変更を行い、前期開講分の担当とした。同科目の後期開講分の担当として非常勤講師1人を採用した。
- ・ 各系等から推薦のあった令和5年度非常勤講師候補者について審査を行い、令和5年度は39人の非常勤講師について、契約更新又は採用することを承認した。

教育職員 配置図

令和5年4月1日現在



1 4. 教育支援組織(事務部)

(1) 取組実績

① 採用

- ・ 令和5年1月1日付けで、育児休業代替職員として、総務課総務係に係員1人を採用した。
- ・ 令和5年4月1日付けで、欠員補充として、学生課学生支援係に係員1人を採用した。

② 配置換・課内異動

- ・ 令和5年4月1日付けで、以下のとおり実施した。
 - ・ 学生課学生支援係長（兼務：寮務係長）を総務課総務係に配置換した。

③ 兼務

- ・ 令和5年4月1日付けで、総務課長に総務課課長補佐（総務担当）を兼務させた。
- ・ 令和5年4月1日付けで、学生課課長補佐に学生課学生支援係長及び寮務係長を兼務させた。

④ 再雇用

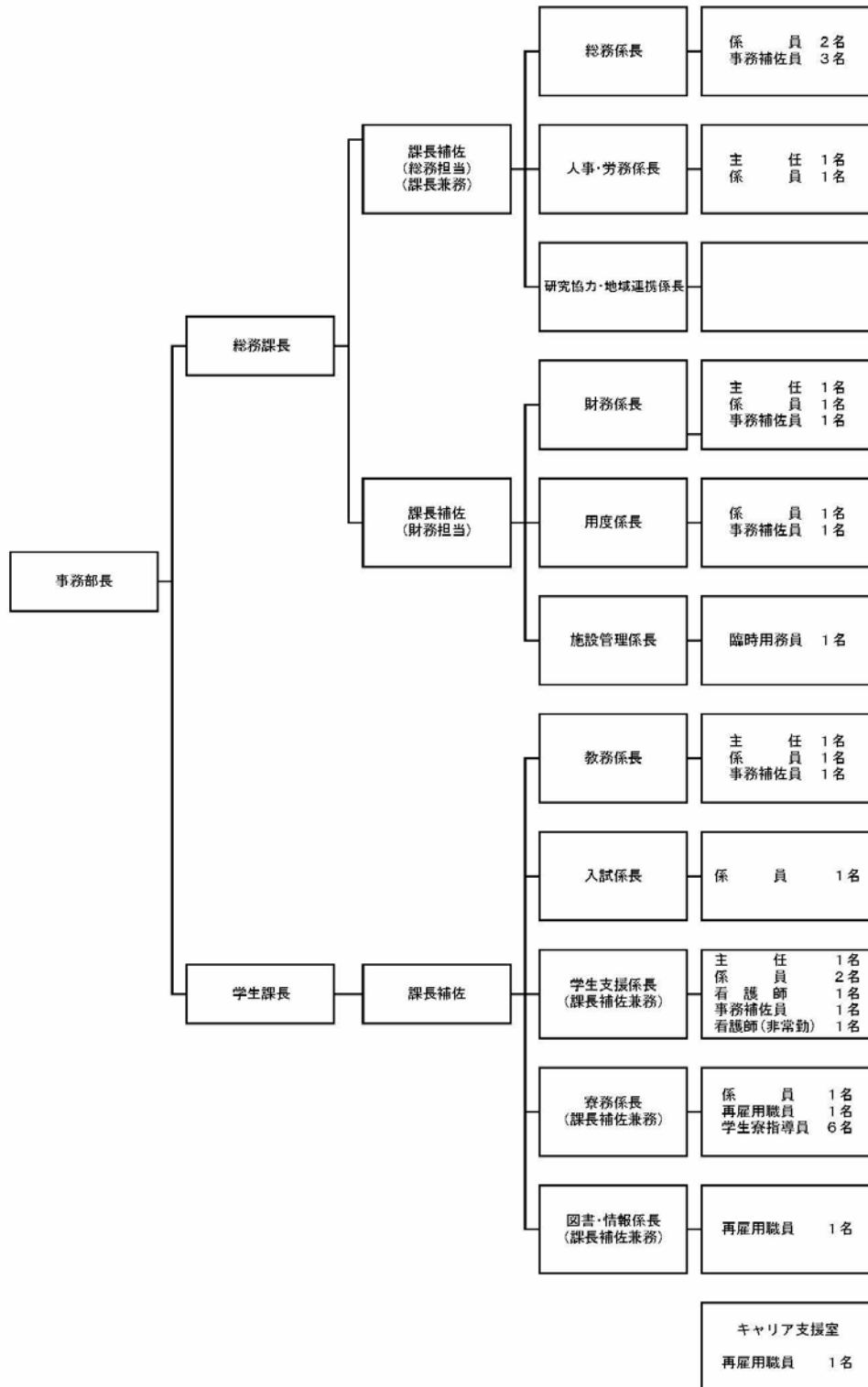
- ・ 令和5年4月1日付けで、学生課寮務係、学生課図書・情報係、キャリア支援室の再雇用職員各1人の再雇用契約を更新した。

⑤ 非常勤

- ・ 令和4年5月1日付けで、後任補充として総務課用度係に事務補佐員1人を採用した。
- ・ 令和5年4月1日付けで、以下のとおり実施した。
 - ・ 後任補充として学生寮指導員を1人採用した。
 - ・ 非常勤職員12人（事務補佐員6人、臨時用務員1人、カウンセラー2人、スクールソーシャルワーカー1人、看護師1人、学生寮指導員5人）の契約を更新した。

事務職員 配置図

令和5年4月1日現在



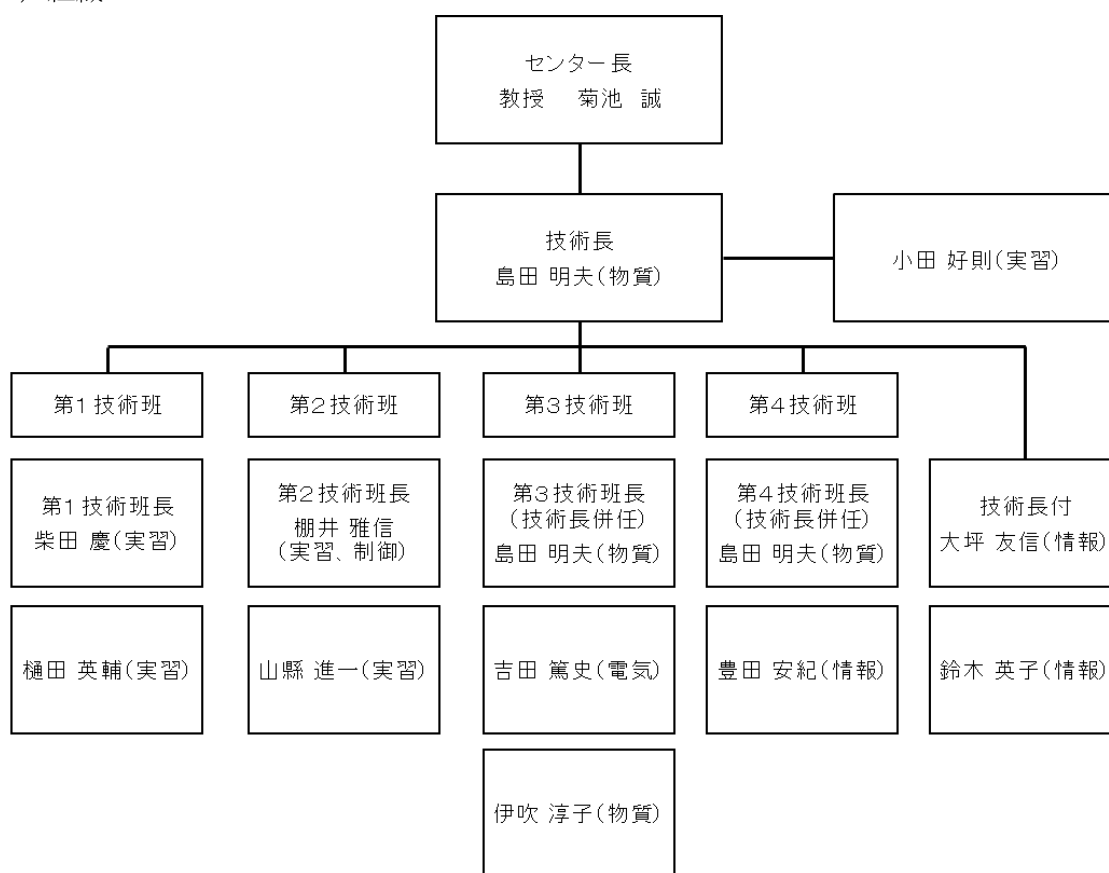
1 5. 教育支援組織（技術教育支援センター）

1. 技術教育支援センターの概要

1) 設立の目的（茨城工業高等専門学校技術教育支援センター規則 第2条）

センターにおいては、本校の教育・研究支援に関する業務の円滑な運営及び管理運営等への技術支援体制の充実を図るとともに、本校技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校の教育・研究に資することを目的とする。

2) 組織



技術教育支援センター組織構成図（令和4年4月1日現在）

3) 職務内容

①技術教育支援センターとしての全般的業務

（資料1 技術教育支援センター規則及び資料2 技術教育支援センター管理運営会議規則参照）

②各班の業務

- イ. 担当と関連する業務の依頼、相談等の窓口
- ロ. 研修会、公開講座等の企画、実施

③職務遂行部署（個人の活動部署）



2. 活動報告

1) 授業等への支援

令和4年度授業等への支援について、各系・部署の要請に沿って実験、実習、演習、授業などの支援を行った。年度開始前に各系・部署からの支援要請を受け取り、調整を行った後に技術教育支援センター技術職員週間スケジュール表の作成を行った。その後、運営会議にて了承を受けた後に上記スケジュールに沿って支援業務を行った。

2) 製作, 作業支援

令和4年度製作等への支援について、各系・部署の要請に沿って卒業研究（本科）、特別研究（専攻科）及び教員研究に伴う製作などの支援を行った。また、部活動に対してはロボット部における高専ロボコン支援として練習フィールドの製作を行った。

（資料7 製作依頼実績一覧 参照）

3. 講習会等の開催報告

本センターでは支援業務の一環として部活・同好会の学生を対象とした基本機械操作講習会を定期的に開催している。本年度は6月、7月に開催した。講習を通して創作の楽しさ・難しさを肌で感じ、ものづくりに対する関心意欲の端緒となれば幸いである。

名 称：基本機械操作講習会

実施期間：令和4年6月14日（火）・21日（火）・28日（火）

実施方法：対面方式での講習

講習会場：実習工場

対 象：ロボット部

講習内容： 1. ケガキの使い方、ポンチの打ち方、ボール盤の使用法
2. バンドソーの使用法
3. 小型フライス盤の使用法
4. ヤスリの使用法

指 導 者：実習工場技術職員（棚井・山縣・柴田・樋田）

名 称：基本機械操作講習会（ボール盤作業）

実施期間：令和4年7月5日（火）

実施方法：対面方式での講習

講習会場：実習工場

対 象：自動車部

講習内容： 1. ケガキの使い方、ポンチの打ち方、ボール盤の使用法
2. バンドソーの使用法
3. ヤスリの使用法

指 導 者：実習工場技術職員（棚井・樋田）

4. 研修会・講習会・学会等の参加報告

令和4年度中に種々の講習会が開催された。情報共有やスキル向上などを目的として本センター職員が参加したものを以下に記す。

名 称：東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（物質系）

主 催：函館工業高等専門学校

日 程：令和4年8月24日（水）～26日（金）

実施方法：オンラインでの研修

出席者：伊吹

名 称 : 関東信越地区国立高等専門学校技術長会議
主 催 : 群馬高等専門学校
日 程 : 令和4年8月26日(金)
実施方法: オンラインでの参加
出席者 : 島田

名 称 : IT人材育成研修会
主 催 : 独立行政法人国立高等専門学校機構本部
日 程 : 令和4年10月13日(木)～14日(金)
実施方法: 対面方式での研修
出席者 : 豊田

名 称 : 関東信越地区高等専門学校情報処理教育研究委員会
主 催 : 東京工業高等専門学校
日 程 : 令和4年12月5日(月)
実施方法: オンラインでの研修
出席者 : 豊田

名 称 : 国立高等専門学校機構情報担当者研修会
主 催 : 独立行政法人国立高等専門学校機構本部
日 程 : 令和4年12月13日(火)
実施方法: オンラインでの研修
出席者 : 豊田

名 称 : 令和4年度第4四半期 総務省情報システム統一研修
主 催 : 総務省
日 程 : 令和5年1月26日(木)～2月7日(火)
実施方法: オンラインでの研修
出席者 : 鈴木

5. 茨城高専おもしろ科学セミナー2022

おもしろ科学セミナーは例年参加していたが、今年度はオンライン開催となり、出展枠の関係上不参加とした。

6. 青少年のための科学の祭典ひたちなか大会 2022

科学の祭典についても例年出展していたが、出展枠の関係上見

7. 会議開催の記録

(1) 令和4年度技術教育センター管理運営会議

令和4年度は情勢を鑑み対面会議ではなく、資料での回覧形式とした。以下に回覧した報告事項を示す。

①令和3年度技術教育支援センター活動報告書

- ・教育支援センター報告書2021（令和3年度）参照

②令和4年度の活動について

(a) 令和4年度技術職員週間スケジュール

- ・3月の運営会議にて了承済み（サイボウズに記載）

(b) 科学研究費申請へ応募

(c) 地域貢献活動

- ・おもしろ科学セミナー 8月20日（土）
- ・青少年のための科学の祭典 11月頃

③令和4年度研修及び会議

(a) 令和4年度東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（物質系）

長岡技術科学大学 8月下旬頃

(b) 令和4年度関東信越地区国立工業高等専門学校技術長会議

群馬高等専門学校 8月下旬頃

④技術教育支援センターニュースの配信継続

(2) 技術教育支援センター会議

令和3年度同様コロナ情勢を鑑み、集合形式での会議は見送った。これに伴い、必要に応じてメール・回覧等による連絡を行った。

8. 技術教育支援センター 技術職員 保有資格状況

知識・技量の証明の一つの指標として積極的な取得を推進している。

令和4年4月1日現在（複数資格取得者含む）

分類	資格名	取得者数
職業訓練指導員	職業訓練指導員（機械）	4
	職業訓練指導員（電気）	2
	職業訓練指導員（化学分析）	1
技能士	特級機械加工技能士	1
	特級機械保全技能士	1
	1級機械加工技能士（普通旋盤作業）	2
	1級化学分析技能士	1
作業環境測定士	第1種作業環境測定士（鉱物性粉じん）	1
	第1種作業環境測定士（特定化学物質）	1
	第1種作業環境測定士（金属類）	1
	第1種作業環境測定士（有機溶剤）	1
衛生管理者	第1種衛生管理者	5
作業主任者	エックス線作業主任者	1
	特定化学物質等作業主任者	2
	鉛作業主任者	1
	有機溶剤作業主任者	1
特別教育インストラクター	局所排気装置等定期自主検査インストラクター	1
電気工事士	第2種電気工事士	2
電気通信設備工事担任者	アナログ第3種工事担任者	1
教員免許	中学校教諭免許状（理科）	1
	高等学校教諭免許状（理科）	1
	中学校教諭免許状（数学）	1
	高等学校教諭免許状（数学）	1
毒劇物取扱責任者	毒劇物取扱責任者	2
危険物取扱者	甲種危険物取扱者	1
	乙種第4類危険物取扱者	7
特別管理産業廃棄物 管理責任者	特別管理産業廃棄物管理責任者	1
技能講習	ガス溶接技能講習	3
	玉掛け技能講習	1
	フォークリフト運転技能講習	1

特別教育	アーク溶接特別教育	2
	自由研削砥石特別教育	5
	機械研削砥石特別教育	2
	プレス・シャー金型交換特別教育	2
	特定粉じん作業特別教育	5
	クレーン運転業務特別教育（5トン未満）	1
情報技術者	基本情報技術者	1
	第2種情報処理技術者	2
	HDBaseT インストーラーエキスパート	1
CAD 利用技術者試験	2次元 CAD 利用技術者試験 2級	1
ビジネス・キャリア検定	2級生産管理オペレーション (作業・工程・設備管理)	1

9. 各種委員会委員一覧（技術教育支援センター職員発令分）

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 1) 安全衛生委員会 | ・ 構成員 島田 明夫 |
| 2) 安全衛生委員会（実習工場に係る技術職員） | ・ 構成員 柴田 慶 |
| 3) 薬品管理専門部会 | ・ 構成員 伊吹 淳子 |
| 4) 放射線障害予防専門部会 | ・ 構成員 吉田 篤史 |
| 5) 研究推進委員会 | ・ 構成員 棚井 雅信 |
| 6) 男女共同参画推進センター | ・ 構成員 鈴木 英子 |
| 7) 技術教育支援センター管理運営会議 | ・ 構成員 島田 明夫 |
| 8) ハラスメント相談員 | ・ 構成員 伊吹 淳子 |
| 9) 男女共同参画推進センター運営委員会 | ・ 構成員 鈴木 英子 |
| 10) 情報セキュリティ推進委員会 | ・ 構成員 豊田 安紀 |
| 11) 学術情報センター | ・ 構成員 豊田 安紀 |

10. 技術教育支援センター今後の計画、目標

技術教育支援センターでは実習・実験のみならず、授業や卒業研究・特別研究の支援を通して技術教育をサポートしてきた。一方で、近年製作依頼における品物形状の複雑化をはじめとして各系・研究室からの依頼の複雑化・多様化が進んでおり、技術や知識へのより深い理解の必要性が高まっている。ここから、より円滑で柔軟な依頼対応が出来るよう技術職員のスキル向上を目指す。具体的には技術教育の要である実習・実験を通して技能・技術に関してのより深い理解とノウハウの蓄積に努めると共に、各員のスキルを活かした多様な支援の中でその強化を図る。

また、国立高専機構中期目標・計画及び年度計画ならびに茨城高専年度計画に沿った支援が出来るよう技術職員の資質向上に努力する。これに際して学会発表や研修会などに対する積極的な推進と科研費をはじめとした外部資金の獲得等を目指す。

加えて、年2回程度の技術教育支援センターニュースの発行やセンターのウェブサイトにおいてリアルタイムに内外へ情報発信可能な場を設けると共に、小中学生向けイベントや公開講座といった地域貢献活動依頼に対して柔軟に対応できるよう努める。

16. 予算及び施設・整備（総務委員会）

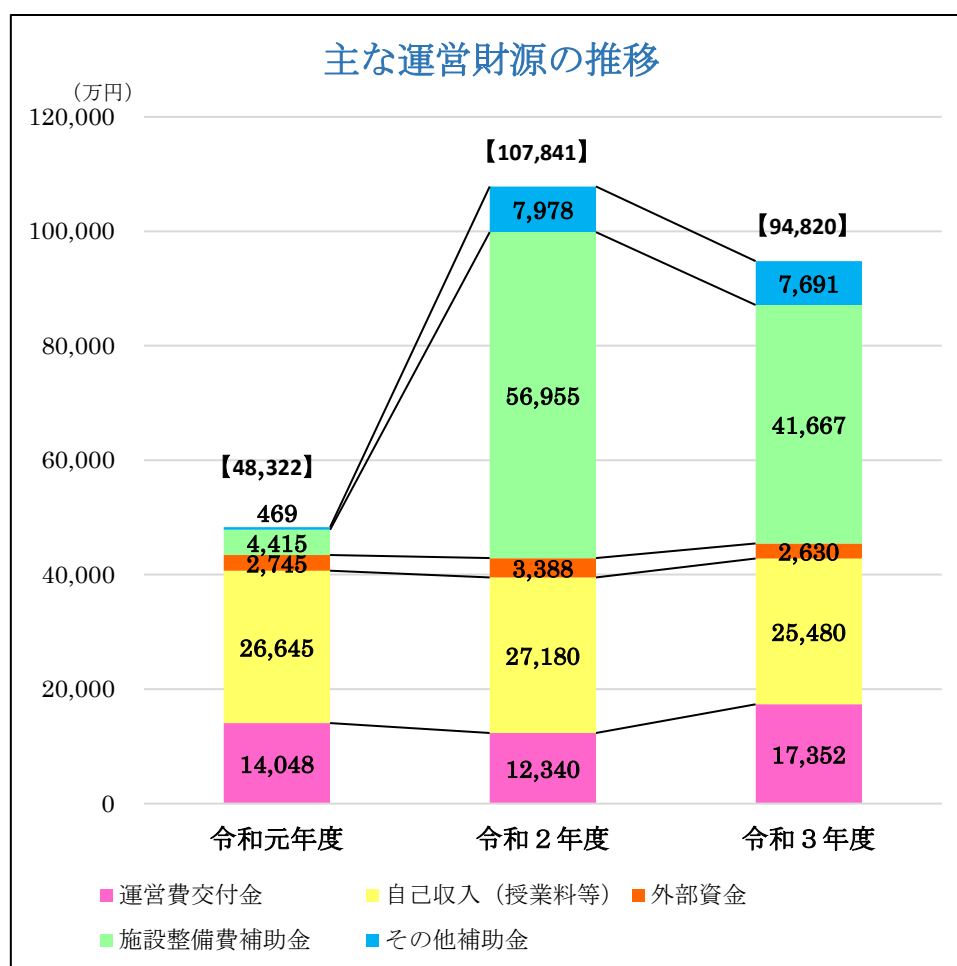
（1）取組実績

①総事業費（収入額）の概況

令和3年度の総事業費（収入額）は、前年度より1億3021万円減少し9億4820万円となりました。減少の主な要因は、国からの資金が主である施設整備費補助金収入（△1億5288万円）の減少です。

一方で、運営費交付金収入の増加（+5012万円）の主な要因として、国際寮（虹友館）建物新営・実習工場改修工事に伴う建物新営設備及び移転費等の増加によるものです。

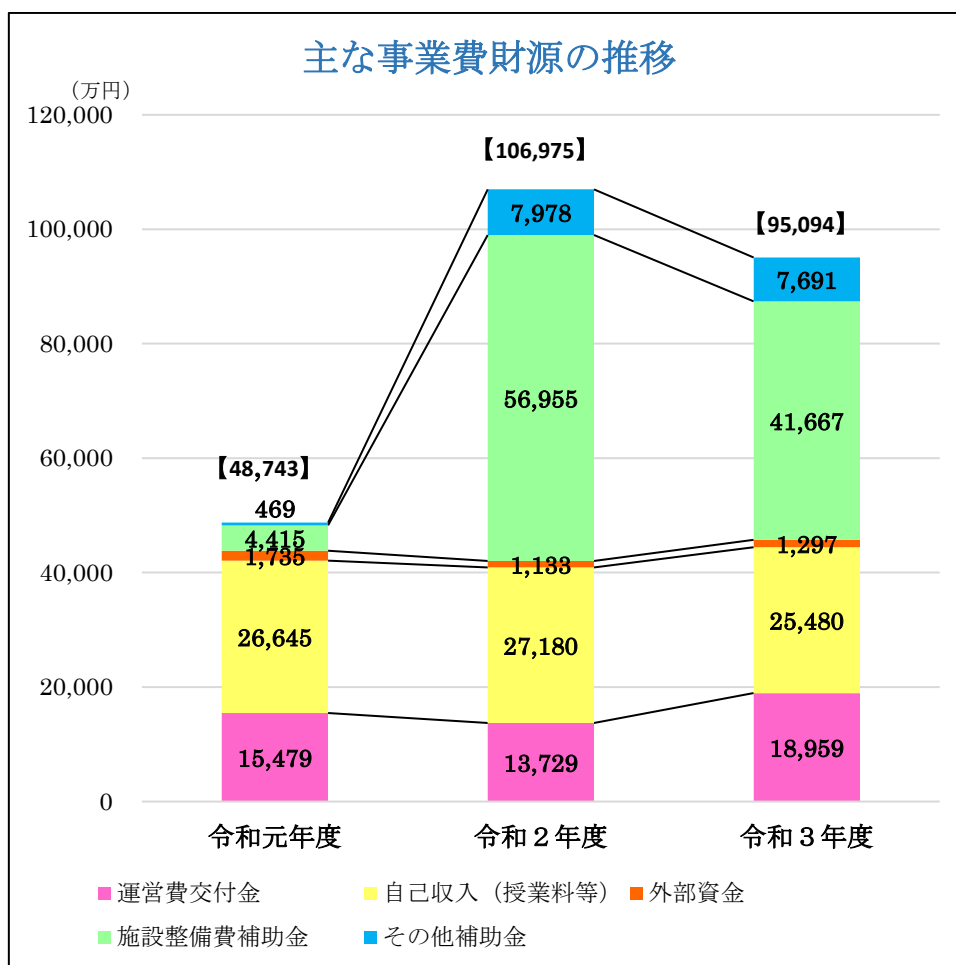
また、その他補助金収入については、令和2年度以降に国からの資金である設備整備費補助金収入（機械設備導入：R2/6件、R3/4件）が大きく増加しています。



②総事業費（支出額）の概況

令和3年度の総事業費（支出額）は、前年度より1億1881万円減少し9億5094万円となりました。減少の主な要因は、施設整備費補助金事業（△1億5288万円）の減少です。施設整備費補助金事業費の支出内容として、令和2年度はライフライン再生（給排水設備、電気設備）及び図書館改修を整備し、国際寮（虹友館）工事の前金払いを支出しました。令和3年度は国際寮（虹友館）の完成払い及び実習工場改修を支出し整備しました。

一方で、運営費交付金収入の増加（+5230万円）の主な要因として、国際寮（虹友館）建物新営・実習工場改修に伴う建物新営設備及び移転費等の増加によるものです。



③予算

運営費交付金事業の予算については、運営交付金算定ルールによる効率化の減額が続く厳しい状況の中、当初配分方針に基づき教育の質が落ちないように学科（各部・系）等への配分基準額は現状維持に努め当初配分を行った。当初配分では毎年減額が続いているものの決算時の予算執行残額調整の精度を上げ、機構本部からのインセンティブや計画的な採用抑制への取り組み等を図ることで教育改革推進経費の増額に努め追加配分（15百万円）

を獲得することが出来た。

また、11月末日で予算執行を締め切り、残予算を有効活用するために集約し一般教養部・系等への機器等更新（15百万円）を行ったほか、教育研究活動及び施設維持管理に対応した整備（15百万円）を実施することで、予算の有効活用を推進した。

さらに、期末執行集中防止と効果的な活用を促進するため昨年度予算実績の50%を4月に配分し、校長のリーダーシップの下、戦略的かつ計画的な学校運営を行うことが出来た。

外部資金の獲得については、外部機関等との積極的な連携・協力により、教育研究支援基金や共同研究、受託研究に繋げる活動を積極的に実施した。

④ 施設・整備

国立高専機構施設整備の中期的施設計画である「国立高専機構施設整備5か年計画2021（令和3年度～7年度）」により令和3年度は国からの施設整備費補助金交付を受け、前年度から繰り越した国際寮（虹友館）新営工事（493百万円）及び実習工場改修工事（114百万円）を完成させ、新たに9号館改修工事（94百万円）を進めている。

また、国立高専機構営繕事業において図書館耐震補強改修工事（24百万円）を施工したほか、機構本部から予算配分された教育等施設基盤経費42百万円を施設維持管理費の施設関係に全額配分することで安心・安全な教育研究環境の確保及び高専教育の国際化への基盤整備に努めた。

整備計画としては、キャンパスマスタープラン2018に基づき、老朽化の著しい施設の改修、学習環境整備及び緑地管理を実施したほか、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の防止に向けて衛生環境の改善を実施した。

（2）自己評価（改善含む）及び課題

① 予算

毎年配分される運営費交付金（管理運営費等）の額は減少しているほか、施設維持管理費及び光熱水費の増加傾向が続く中、教育の質を維持するため本校では集約予算を有効活用し学生の実験実習の経費に追加配分することで、平成16年度並みの学科（各部・系）等教育研究経費を維持している。集約予算については、その半分が追加配分の教育改革推進経費で占めている為、機構本部で考えている教育改革推進経費の加減額が影響されている。今後は文部科学省や高専機構の新しい政策に取り組み、地域や社会の要請を敏感にとらえ、外部資金の導入促進など財源の多様化のための取り組みを推進し、必要な財源確保に最大限努力していくことが必要である。

また、経常経費の圧縮が喫緊の課題となり、光熱水費の抑制のほか、特に委員会等経費については、前年度を踏襲した予算要求が数多く見られることから、必要性・緊急性並びに教育効果等を十分検討した上で、学校全体の為に有効活用するよう意識改革させることが今後の課題である。

②施設・整備

キャンパスマスタープラン 2018 に基づき、教育研究環境の改善及びキャンパス整備を上記取組実績のとおり計画的に実施した。

なお、老朽化した既存設備については、多様な財源の活用も視野に入れ計画的に整備を行う必要があり、適切な維持管理を行い、設備の長寿命化を図る必要がある。

また、高専機構施設整備 5 か年計画 2021 が策定されたのを受け、本校 10 年計画WGのキャンパスマスタープラン部会において施設整備計画の見直しを図りつつ、キャンパスマスタープランの更新を検討している。

今後は、施設整備の充実に取り組みを行い、質の高い安全な教育研究環境の確保とともに、教育の高度化、国際化並びに SDGs に対応した施設整備を進める必要がある。

(3) 今後の展開

本校が質の高い実践的・創造的技術者育成教育を行うことができるよう、基盤的な環境の整備を図る上で、運営費交付金や学生納付金以外から多様な財源の確保に努めていき、無駄な予算執行を極力抑えていけるように教職員一体となって意識改革を行っていく必要がある。

17. 安全衛生管理（安全衛生委員会）

（1）取組実績

安全衛生委員会では、年間安全衛生推進計画を策定し、同計画に基づき実施及び実施状況の確認を行っている。

以下は、同計画の実施項目に沿った実績報告である。

①安全衛生管理

1) 安全衛生委員会の開催

法令に基づき、毎月1回安全衛生委員会を開催した。

2) 職場巡視の実施

法令に基づき、衛生管理者及び産業医による職場巡視を実施し、4S（整理・整頓・清掃・清潔）を推進した。

指摘があった事項については、安全衛生委員会へ報告の上、是正措置を講じた。

3) 4S（整理・整頓・清掃・清潔）推進に伴う赤札作戦の実施について

12月～1月にかけて赤札作戦を実施し、不要物品の洗い出し及び廃棄を実施した。

②安全衛生啓発活動及び訓練

1) 各種行事等の周知

全国安全週間、全国労働衛生週間、年末年始無災害運動、全国交通安全運動の各行事について学内周知を行い、教職員への啓発を実施した。

2) 自衛消防訓練、初期消火訓練の実施について

10月に全学生、全教職員を対象として自衛消防訓練、初期消火訓練を実施した。

3) 学寮避難訓練の実施について

4月及び10月に学生寮における避難訓練を実施した。

③心と体の健康づくり

1) 健康診断の実施

法令に基づき、定期健康診断、特殊健康診断、特殊歯科検診等の各種健康診断を実施し、受診可能な者（人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含む。）は全員が受診した。

また、産業医が健康診断結果を確認し、必要と認める者に対しては健康指導等を実施した。

2) ストレスチェックの実施

法令に基づき、ストレスチェックを実施した。

高ストレス者については、希望者を対象として産業医による面接指導を実施した。

3) 感染症予防事業の実施について

感染症対策事業として、インフルエンザ予防接種を実施した。

④安全衛生教育

1) 「学校安全の心得」の配付

例年、グループウェア・サイボウズにより電子版を掲載し、教職員が閲覧可能な状態にしている。

2) 「実験実習安全必携」の配付

Google ドライブを活用し、全学生に対し電子データによる配付を行った。

⑤機械、薬品等の定期点検による安全確保

1) 機械の特定自主検査等の実施

対象機械について、特定自主検査を実施した。

2) エックス線発生装置の点検実施

エックス線発生装置の点検を実施し、異常がないことを確認した。

3) 薬品使用状況及び廃液の点検

薬品管理システムにより薬品管理を実施するとともに、実験等による薬品廃液については、回業者へ委託し廃棄処理をした。

4) 作業環境測定及び大気環境中のアスベスト濃度測定の実施

9月及び3月に、本校の作業環境測定士を中心として上記測定を実施した。

5) 局所排気装置の点検

法令に基づき、局所排気装置の点検を実施した。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

① 人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含め、該当者全員が定期健康診断を受診できており、引き続きこの状況を維持できるようにする。

② 衛生管理者能力向上教育への衛生管理者派遣について、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今年度も派遣を見送ったが、最新情報の取得や最近の動向把握にも役立つため、継続的に実施していく必要がある。

③ 普通救命講習会の実施について、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度も実施を見送ったが、教職員の救急救命措置能力の習得・向上のため、定期的に実施していく必要がある。

(3) 今後の展開

- ① 学科改組により教員組織の構成員及び教員室の場所が変更となる可能性があったため、対応を見送っていた①「学校安全の心得」の改定作業、②実験室使用者及び薬品使用状況調査を実施する必要がある。
- ② 作業環境測定士等の有資格者を複数人確保し、当該有資格者の業務負担軽減及び当該有資格者が対応困難な際の相互補完が可能な体制を構築する。

18. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）

（1）取組実績

自己点検・評価については、各事項を所掌する委員会等で行うこととなっており、それを総合して点検・評価する組織として自己点検・評価委員会を設置している。

当委員会では、主に教育点検・評価システムの検討及び改善、外部評価の受審、年度計画実績の評価等を行っており、今年度は次の活動を行った。

①授業評価アンケートの実施

前期開講科目は前期期末試験終了後に、後期開講科目及び通年開講科目について後期期末試験終了後に授業評価アンケートを実施した。アンケートは、原則全科目・全教科を対象として実施した。

個人の評価については、各系長等及び各個人にフィードバックした。

②担任評価アンケートの実施

担任評価アンケートを、年度末の授業最終週に実施した。

個人の評価については、各系長等及び各個人にフィードバックした。

③学習指導法等の工夫・改善事例報告書の作成

前年度の授業評価アンケートで基準点を超えた教員から、授業での取り組みを記載した学習指導法等の工夫・改善事例報告書を提出してもらい、グループウェアに公表した。

なお、当該報告書を元に優れた取り組みを行った教員を教員表彰に推薦し、5人の教員が表彰された。

④参与会の開催

本校以外の有識者に、教育研究活動等の状況についての評価及び助言等の提言をいただき、改善を行うことを目的とした参与会を次のとおり開催した。

- ・ 開催日：令和5年3月10日（金）
- ・ テーマ：「今年度の入学者獲得の活動について」
「キャリア支援室の活動について」
「課題解決型インターンシップ（MIPPE プラス）の活動について」

⑤FD研修会の開催

教員の教育改善・能力の向上を目的としてFD研修会を次のとおり開催した。

第1回

- ・ 開催日：令和5年1月26日（木）

- ・ 題目：継続的に教育を改善するための仕組みと IR による支援
- ・ 講師：茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門
情報戦略機構 デジタル改革推進部門
 寫田 敏行 教授

第2回

- ・ 開催日：令和5年2月10日（金）
 令和5年2月22日（水）
- ・ 題目：情報セキュリティ
- ・ 講師：株式会社ネットラーニング

⑥自己点検・評価委員会の開催

第1回

- 開催日：令和4年6月22日（水）
- 議 題：1. 自己点検・評価委員会の業務について
 2. 令和4年度前期分授業評価アンケートについて
 3. 令和4年度教員表彰の推薦者について
 4. 令和4年度教員表彰の推薦者について
 5. 令和4年度参加会参加

第2回

- 開催日：令和4年12月14日（水）
- 議 題：1. 令和4年度後期授業評価アンケートの実施について
 2. 令和4年度担任評価アンケートについて
 3. 令和4年度参加会の開催について

⑦教育改善計画会議の開催

「教員相互による定期試験問題等のチェックに関する申合せ」に基づき、教育の改善内容について協議する、教育改善計画会議を次のとおり開催した。

開催日：令和5年3月16日（木）

- 議 題：1. 定期試験問題及び授業改善計画書に基づく協議
 2. 成績評価に用いる答案等の保存の徹底について
 3. 今後の教育自己点検について

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 授業評価アンケートは、全教員へフィードバックし教育改善の一助とした。
- ② 担任評価アンケートを全担任教員へフィードバックし教育改善の一助とした。
- ③ 「学習指導法等の工夫・改善事例報告書」から優秀な取り組みを行った教員5人を表彰したことにより、教員の教育改善の意欲を高める一助とした。
- ④ 参与会は、本校が重要課題として取り組んでいる「(1)入学者獲得、(2)キャリア支援、(3)課題解決型インターンシップ（MIPPEプラス）」のテーマで開催し、各参与から本校の取り組みは概ね適切との評価をいただいた。助言のあった事項については、今後、改善に努めていく。
- ⑤ FD研修会は、(1)教学IR、(2)情報セキュリティを題目として2回開催し、教育支援を推進するための一助とした。
来年度もテーマを精査の上、実施していく。

(3) 今後の展開

本校では教育活動改善に向けて、学生からのフィードバックを重視している。より率直で建設的な意見を受け入れることが可能であり、回答者の負担を軽減するようなアンケート実施方法となるように見直しを図っていく。